

愛知県美術館年報

目次

基本理念と事業概要	6
沿革	8
作品の収集と保存管理	9
作品の収集	9
収集方針・収集の状況など	9
新収蔵作品	10
保存・修復	15
所蔵作品の貸出	17
展示・展覧会	22
所蔵作品展	22
所蔵作品展展示作品リスト	22
小企画展（テーマ展示）	33
企画展	35
1997年度観覧者数一覧	52
教育普及	53
出版・発行	53
講演会・講座等	53
ギャラリートーク	54
鑑賞プログラム	54
ビデオトーク、ビデオソフト	56
移動美術館	56
博物館実習	58
友の会	59
調査研究	60
ギャラリー（貸館）	61
利用状況	61
利用者一覧	62
施設概要	65
関係法規	66
組織および職員構成図	72
関係委員会名簿	73

基本理念と事業概要

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

●基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化に応じていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

●基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と連係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 国際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がり多様性のある展示等を柔軟に展開する。

●事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

(ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品

(イ) 現在を刻印するにふさわしい作品

(ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品

(エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料

※収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えて

いくために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に修復室などの設備が設けられており、保存・修復を研究の専門領域とする学芸スタッフが配属されている。また、企画展等での借用作品や収集候補作品などの保存状態把握と適切な環境整備にも努め、5階に収蔵庫と同仕様の企画保管庫も設けている。

イ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示

展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示

展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示

展示室7 近現代日本画の展示

展示室8 20世紀版画・素描の展示

屋外展示スペース 屋外での展示が効果的な大型彫刻・立体の展示

※展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品をふさわしい条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4～6回の展示替えを行っている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展覧会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

(ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展

(イ) 世界の現代美術を紹介する国際展

(ウ) 時代・地域に限定されない国際展

(エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展

(オ) 現代日本美術に関するテーマ展、個展

(カ) 愛知県、東海地域に関する美術展

(キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョン／NTSC兼用プロジェクタ

ー2台に所蔵作品や企画展などに関する自主制作ビデオソフト、および美術史一般に関する既成ソフトを放映し、作品鑑賞の手引きとしている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品のうち約250点を、精細な静止画像と文字情報を組み合わせて紹介している。

(イ) 移動美術館

美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1回、所蔵作品の公開とこれに関連する講座・講演等を行っている。

(ウ) 講座・講演会

12階のアートスペースにおいて、外部講師または当館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

(エ) ギャラリートーク

企画展開催中、担当学芸員によるギャラリートーク（展示室での解説）を行っている。

(オ) 子供鑑賞会

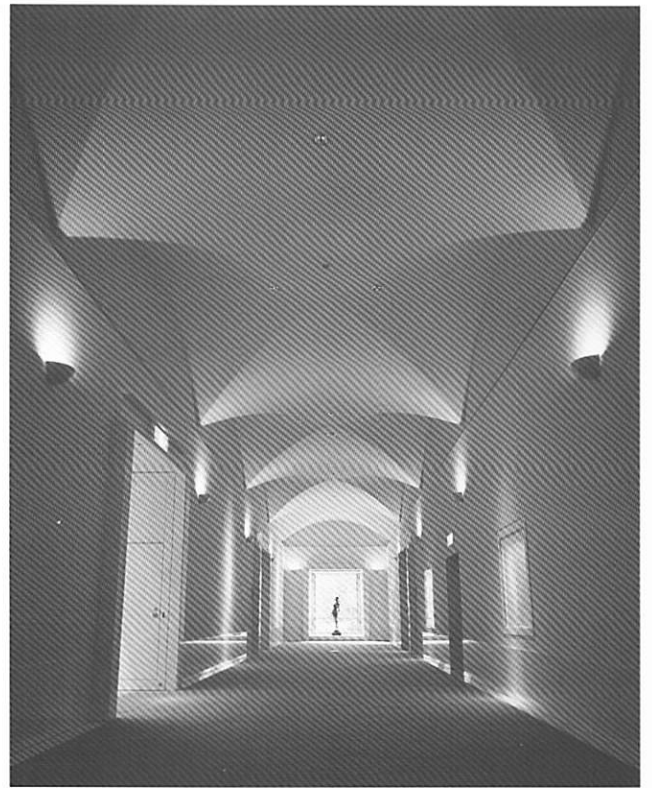
小中学生を対象に所蔵作品についてのワークシートを作成し、それを用いた鑑賞会等を行っている。

オ 調査研究

作品収集や企画展開催の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



美術館前室（10F）



美術館ギャラリーロビー（8F）

愛知県文化会館美術館

1952年

- 4月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業
文化施設基本計画樹立委員会設置
- 10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始

1953年

- 2月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表
- 6月 基本設計着手

1954年

- 2月 美術館建設着工

1955年

- 1月 美術館建設竣工
- 2月 美術館開館
- 4月 『愛知県文化会館美術館ニュース 窓口』創刊
- 5月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品を受贈

1957年

- 10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催

1959年

- 4月 ブールデル作《アルヴァール将軍の記念碑》のための4
体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入

1967年

- 7月 最初の所蔵品展開催

1971年

- 3月 『美術館所蔵品目録』発行

1975年

- 5月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名
作展」開催

1979年

- 4月 常設展示室開設

1985年

- 9月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たちー愛知県美術館
30年のあゆみ展」開催

1992年

- 2月 常設展入場者数40万人達成
- 3月 常設展示室閉室
- 10月 閉館

愛知芸術文化センター愛知県美術館

1983年

- 4月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務当局に
指示した旨、発表
- 7月 新文化会館(仮称)構想懇談会設置

1985年

- 3月 建設基金条例設定
「新文化会館基本構想」提言

1983年

- 4月 新文化会館建設事務局設置
- 7月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置

1986年

- 8月 栄地区施設公開設計競技開始
- 11月 美術品収集計画研究会設置

1987年

- 5月 栄地区施設最優秀作品発表
- 12月 栄地区施設基本設計終了

1988年

- 4月 美術品等取得基金設置
- 6月 美術品収集委員会設置
- 11月 栄地区施設実施設計終了

1989年

- 3月 栄地区施設起工式
- 10月 「新収蔵作品展」開催

1991年

- 4月 文化振興局設置
- 11月 第2回「新収蔵作品展」開催

1992年

- 4月 愛知県美術館準備室開設
- 6月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置
栄地区施設竣工
- 10月 美術館開館
開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催
『美術館所蔵作品選』発行

1993年

- 1月 開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会いと対
話」開催
- 2月 開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催
- 3月 『美術館所蔵作品目録』発行
- 5月 第42回全国美術館会議総会開催会場
- 10月 センター開館1周年記念事業として「リール市美術館所
蔵 バロック・ロココの絵画」展及び連続美術講座6回
「バロック・ロココの芸術空間」開催

1994年

- 9月 愛知県美術館友の会設立発起人会開催
- 10月 南知多町で第1回移動美術館「20世紀の美術」開催
友の会設立及び第1回鑑賞会(聖なるかたち展)開催

1995年

- 5月 友の会 第1回総会

1998年

- 1月 開館5周年を記念し10階全展示室を所蔵作品で講成した
展覧会を開催、『近代美術の100年 愛知県美術館のコレ
クション』発行

作品の収集と保存管理

作品の収集

1 収集方針

- ・20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・現在を刻印するにふさわしい作品
- ・愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

2 収集委員会の開催

1997年度は収集委員会を2回開催し、32点の作品を購入、2点の資料の寄贈を受けた。

- ・第1回収集委員会 1997年5月16日
- ・第2回収集委員会 1997年10月9日

3 収集の状況

1998年3月末日までの収集の状況（点数）は次のとおり。

美術品等収集状況

	96年度までの収集				97年度収集			97年度までの統計		
	愛知県文化会館美術館	新美術館準備	開館後	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
<国内>										
日本画(JJ)	149	45	8	202	1	0	1	133	70	203
洋画(JO)	378	59	31	468	4	0	4	388	84	472
水彩・素描(JO)	309	134	12	455	1	0	1	377	79	456
立体(JS)	23	38	11	72	4	0	4	72	4	76
版画(JP)	101	207	26	334	21	0	21	318	37	355
資料(JM)	4	1	1	6	0	2	2	0	8	8
工芸その他	70	0	0	70	0	0	0	39	31	70
小計	1034	484	89	1067	31	2		1327	313	1640
<海外>										
絵画(FO)	15	24	9	48	1	0	1	45	4	49
水彩・素描(FD)	0	4	3	7	0	0	0	7	0	7
立体(FS)	6	13	8	27	0	0	0	25	2	27
版画(FP)	1	65	6	72	0	0	0	71	1	72
インスタレーション(FI)	0	0	2	2	0	0	0	2	0	2
資料(FM)	0	1	1	2	0	0	0	1	1	2
小計	22	107	29	158	1	0	1	151	8	159
合計	1056	591	118	1765	32	2	34	1478	321	1799
藤井達吉コレクション	1460	—	—	—	—	—	—	—	1460	1460
総計	2516	591	118	3225						3259

※表の注記

愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は、愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において、1987年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集とは1993年度以降のものを指す。なお、藤井達吉コレクションとは、愛知県文化会館美術館の開館時（1955年）に藤井達吉氏より寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料を指す。

1997年度新収蔵作品

[凡例]

・各作品は、JJ (日本画)、JO (洋画)、JP (日本の版画)、JD (日本の水彩・素描)、FO (海外の絵画)、FS (海外の立体)、FP (海外の版画)、FI (海外のインスタレーション)、FM (海外の資料) に分けられたうえで、作家姓の五十音順 (日本の作品) ないしはアルファベット順 (海外の作品) に配列され、同一作家による複数の作品については、制作年、次いで作品名の五十音ないしはアルファベット順もしくはカタログ・レズネの番号順に配されている。

・各作品に係る収蔵事項は以下の通り：

作家名 生歿年

作品名

制作年 技法・材質 寸法 (タテ×ヨコ (×奥行き))

署名、年記

版画の摺番号、もしくは立体の鋳造番号

初出の展覧会

収蔵種別 (購入、寄贈等) 所蔵番号

国内作家

〈日本画〉

土田麦僊 1887—1936

TSUCHIDA, Bakusen

南国早春

Early Spring at the South

1915年 絹本着色 127.8×42.6cm
左上に落款：麦僊；白文長方印：麦僊之印

購入 97-JJ-001



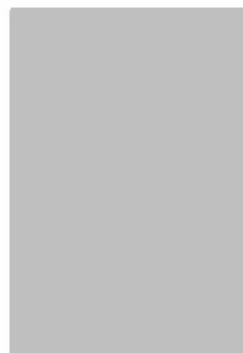
堀浩哉 1947—

HORI, Kosai

風の音へー84・2

To the Sound of Wind 84・2

1984年 アクリル・岩絵具・オイル
スティック、画布 227×162cm
購入 97-JO-003



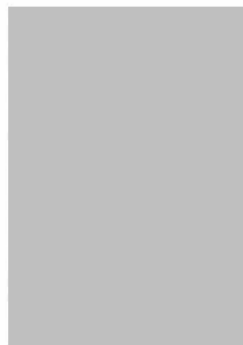
堀浩哉 1947—

HORI, Kosai

水の肌へー84・2

To the Skin of Water 84・2

1984年 アクリル・岩絵具・オイル
スティック、画布 227×162cm
購入 97-JO-004



〈洋画〉

浅井忠 1856—1907

ASAI, Chu

八王子附近の街

Landscape near Hachioji

1887年 油彩、画布 42.7×61.2cm
左下に署名、年記：C ASAI 1887
購入 97-JO-001



〈水彩・素描〉

髪光 1907—1946

AI-MITSU

編物をする女

Woman Knitting

1934年 グアッシュ・クレヨン、紙
27.5×15cm
右下に白文方印：aik
購入 97-JD-001



大沼映夫 1933—

ONUMA, Teruo

二人

Two

1977年 油彩、画布 165×135cm
右下に署名：ONUMA
第4回祭の会展 (銀座・東京セントラル美術館、1977年)
購入 97-JO-002



〈立体〉

岡本敦生／ 1951－
野田裕示 1952－
OKAMOTO, Atsuo & NODA, Hiroji

地殻－潜むかたち
1、2、6、11

The Crust of the Earth- Latent
Form 1, 2, 6, 11

1996/97年 御影石、アクリル
コラボレーション 岡本敦生＋野田裕示展
(ギャラリーユマニテ東京／ギャラリー山口、1996年) 1, 2, 6
テーマ展 コラボレーション 岡本敦生＋野田裕示展 (愛知県美術館、1997
年) 11
購入 97-JS-001～004
1. 83×200×54cm 6. 97×177×9
2. 76×200×52cm 11. 165×38×23cm



加藤昭男 1927－
KATO, Akio

ツタンカーメン
のえんどう豆

Pease of Tut-ankh-Amen

1996年 ブロンズ 124×145×85cm
鋳造番号：1/3
第60回新制作協会展 (東京都美術館、
1996年)
購入 97-JS-005



千崎千恵夫 1953－
SENZAKI, Chieo

無題
Untitled

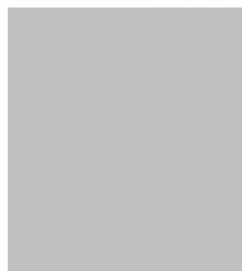
1992年 ワックス・合板・和紙・写
真・ブリキ缶・ガラス板・種
205×332×10cm
千崎千恵夫展 (永井祥子ギャラリー、
1992年)
購入 97-JS-006



舟越桂 1951－
FUNAKOSHI, Katsura

肩で眠る月
The Moon Sleeps on the Shoulder

1996年 着色した木・大理石
H.88.5cm
舟越桂新作彫刻展 (西村画廊、1996
年)
購入 97-JS-007



〈版画〉

辰野登恵子 1950－
TATSUNO, Toeko

Aug.-Oct. 1992

1992年 6枚組ポートフォリオ

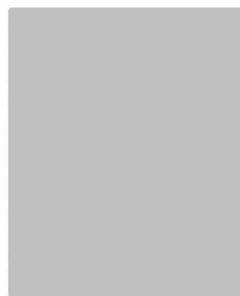
ed. 40/45

購入 97-JP-001

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1.ディープエッチング・ソフトグラウンド・アクアチント、紙 | 40×50cm |
| 2.エッチング・アクアチント、紙 | 50×40cm |
| 3.エッチング・ソフトグラウンド・アクアチント、紙 | 50×40cm |
| 4.エッチング・ディープエッチング・ソフトグラウンド・アクアチント、紙 | 50×40cm |
| 5.エッチング・ディープエッチング・ソフトグラウンド・アクアチント、紙 | 50×40cm |
| 6.エッチング・ソフトグラウンド・アクアチント、紙 | 40×50cm |



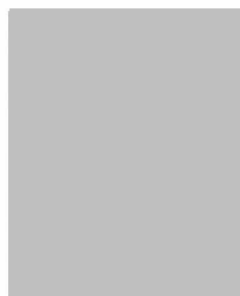
1



2



3



4



5



6

長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

野辺小禽

Bird in a Field

1957年 エングレーヴィング、紙
23.8×33.4cm
右下に署名：KIYOSHI HASEGAWA
左下：7/60 à Monsieur Juli Cain ;
en témoignage d'admiration 1957
ed. 7/60
購入 97-JD-002



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

薔薇と封書

The Rose and the Letter

1959年 メゾチント、紙
26.4×36.0cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;
左下：35/60
左下隅：" La rose et la lettre "
(manière noire) 1959
ed. 35/60
購入 97-JD-006



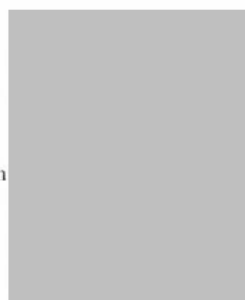
長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

静物

Still Life

1958年 メゾチント、紙 27.4×22.4cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ; 左
下：ép. d'état
ed. E.A.
購入 97-JD-003



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

人形のある静物

Still Life with the Doll

1960年 メゾチント、紙
36.1×26.4cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ; 左
下：16/60
左下隅：" Nature morte à la poupée "
(manière noire) 1960 "人形のある静
物"
ed. 16/60
購入 97-JD-007



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

瓶の秋草 (ピエ・ド・シェーヴル)

Still Life with the Autumn Plant
(Flower Stems of Aegopodium
podagraria)

1959年 メゾチント、紙
35.3×25.8cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;
左下：43/60
左下隅：" Nature morte à la plante
d'automne " (manière noire) 1959.
Paris
ed. 43/60
購入 97-JD-004



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

コップに挿した種子草

Graminae in the Glass

1961年 メゾチント、紙
35.9×26.7cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;
左下：19/70 ; 左下隅：Bon
ed. 19/70
購入 97-JD-008



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

小鳥と落葉

Bird and Autumn Leaves

1959年 メゾチント、紙
26.3×36.1cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;
左下：54/60
左下隅：" Oiseau et feuilles d'au-
tomne " (manière noire) 1959.
ed. 54/60
購入 97-JD-005



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

小鳥と胡蝶

Birds and Butterflies

1961年 メゾチント、紙
26.5×36.1cm
右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;
左下：58/70
左下隅：" Oiseau et papillons "
(manière noire) 1961. Paris
ed. 58/70
購入 97-JD-009



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

骰子独楽と幸福の星

The Teetotum and the Star of Happiness

1961年 メゾチント、紙

26.6×35.9cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：63/70

左下隅："Toten et l'étoile du bonheur" (manière noire) 1961

ed. 63/70

購入 97-JD-010



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

酒盃の草花

Cup with Flowers of Field

1963年 メゾチント、紙

26.5×35.8cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：56/80

左下隅："Coupe de fleurs de Champs" (manière noire) 1963

ed. 56/80

購入 97-JD-014



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

飼い馴らされた小鳥

(西洋将棋など)

Tamed Bird (Chessboard)

Tamed Bird (Chessboard)

1962年 メゾチント、紙

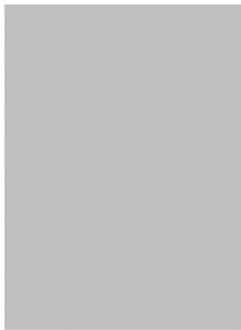
36.1×26.7cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：37/70

左下隅：Oiseau apprivoisé (jeu d'échecs) manière noire. 1962. Paris

購入 97-JD-011



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

小鳥と二つの枯葉

Bird and Two Leaves

1964年 メゾチント、紙

26.5×35.6cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：35/70

左下隅："Oiseau et deux feuilles" (manière noire) 1964

ed. 35/70

購入 97-JD-015



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

幾何学的錐型と

宇宙方程式

Geometric Cone and Equation of the Universe

1962年 メゾチント、紙

26.5×35.8cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：15/70

左下隅：Cône géométrique et équation de l'Univers (manière noire) 1962.

ed. 15/70

購入 97-JD-012



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

砂漠のバラと海の星

Rose of Sand and Star of the Sea

1964年 メゾチント、紙

26.4×35.6cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

左下：23/50

左下隅："Rose des sables et étoile de mer" (manière noire) 1964

中央下："砂漠とバラの星" ed. 23/50

購入 97-JD-016



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

狐と葡萄

(ラ・フォンテーヌ寓話)

The Fox and Grapes
(Fable of La Fontaine)

1963年 メゾチント、紙

35.4×26.4cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

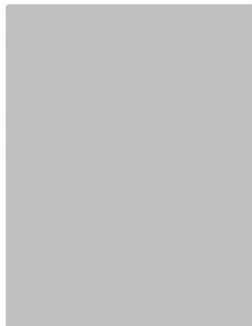
左下：39/80

左下隅："Le renard et les raisins." (Fables de La Fontaine) 1966

(manière noire)

ed. 39/80

購入 97-JD-013



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

コップに挿したアンコリ
の花(過去・現在・未来)

Ancolies in a Glass (Past, Present, Future)

1965年 メゾチント、紙

35.6×26.5cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa. ;

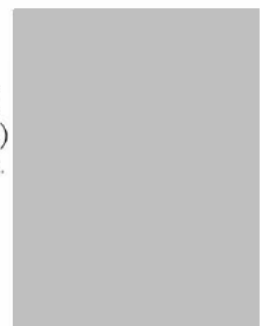
左下：60/70

左下隅："Ancolies dans un verre" (passé, présent, Futur) mezzotint.

1965. Paris

ed. 60/70

購入 97-JD-017



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

メキシコの鳩 静物画

Still Life with Mexican Dove

1966年 メゾチント、紙

26.4×35.4cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa；左

下：65/80

左下隅："Nature morte à la Colombe

Mexicaine" (manière noire) 1966.

ed. 65/80

購入 97-JD-018



〈資料〉

岸本清子 1939—1988

KISHIMOTO, Sayako

《ナルシスの墓標》のためのドローイング（23枚組）

Drawings for the "Grave Marker for Narcissus"

1966年 鉛筆・水彩・インク、紙

各26.9×37.9cm

岸本鎌一氏寄贈 97-JM-001

岸本清子 1939—1988

KISHIMOTO, Sayako

スケッチブック（1冊：58葉）

Sketchbook

1965年頃 鉛筆・水彩・インク、紙

18.7×26.5cm

岸本鎌一氏寄贈 97-JM-002

長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

ジロスコープのある静物

Still Life with Gyroscope

1966年 メゾチント、紙

35.6×26.4cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa；

左下：14/70

左下隅："Nature morte au gyro-

scope" (manière noire) 1966.

ed. 14/70

購入 97-JD-019



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

本の上の小鳥 静物画

Still Life "Bird on a Book"

1967年 メゾチント、紙

26.5×35.8cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa；左

下：11/80

左下隅："Oiseau sur un livre"

(manière noire) 1967.

ed. 11/80

購入 97-JD-020



海外作家 Overseas Artist

〈絵画〉

ボナール、ピエール 1867—1947

BONNARD, Pierre

にぎやかな風景

Animated Landscape

1913年頃 油彩、画布 130×221cm

右下に署名：Bonnard

購入 97-FO-001



長谷川潔 1891—1980

HASEGAWA, Kiyoshi

メキシコの種子草 静物画

Still Life "Mexican Graminae"

1967年 メゾチント、紙

35.7×26.5cm

右下に署名：Kiyoshi Hasegawa；

左下：13/80

左下隅：Nature morte (Graminées

Mexicaines) manière noire 1967

ed. 13/80

購入 97-JD-021



保存・修復

展示や貸出に伴う点検に加え、計画的な状態調査によって所蔵作品の保存状態の把握を進め、対策を必要とする作品に処置を行った。修復計画にあたって特殊な知識や技術を要すると判断された作品については、館外の専門家に調査を委託した。また、作品に応じた保存環境の整備と維持管理に努めるとともに、地震の対策処置を進めた。

1997年度の活動概要

- ア 所蔵作品の状態調査

・ 状態調査作品

22点

・ 状態調査委託作品

1点
- イ 所蔵作品の保存処置等

・ 保存処置作品

22点（うち委託 19点）

・ 新規額の製作

2組（9点）
- ウ 保存環境の整備

・ 虫菌害対策として2度のモニタリングを行い、展示室2

・ 企画保管庫のブンガノン燻蒸を実施
- エ 美術館の防災に関する調査研究及び防災対策の実施

・ 彫刻展示免震台座（汎用）の作製

状態調査委託作品一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	今井俊満	東方の光	1960	油彩、画布	修復計画	大原秀之

保存処置作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	処置前の状態	処置内容	処置者
1	小林 和作	秋の山湖 (油彩、画布)	洋画	絵具層の剥離 (cleavage)	剥落留め(膠)	長屋 (館内処置)
2	杉本 健吉	正倉院 (油彩、画布)	洋画	絵具層の剥離、剥落 (cleavage, cupping)	剥落留め(パラロイドB72)	長屋 (館内処置)
3	清水 登之	建築現場 (油彩・画布)	洋画	支持体の破れ、不適切な補 彩、ニスの斑	支持体の繕い、旧補彩の除 去、ニスの斑の調整	小林嘉樹
4	今井 俊満	東方の光 (油彩、画布)	洋画	絵具の流出	表面コーティング 支持体の強化	大原秀之
5	メダルド・ ロッソ	病める子 (石膏)	立体	展示時の不安定	専用の展示台の製作と接着	藤原 徹
6	クルト・シュ ヴィッターズ	メルツ絵画52、美容 (コラージュ)	絵画	変形、汚れ	ドライクリーニング マットの変更	森 京子 (館内処置)
7	クルト・シュ ヴィッターズ	メルツ絵画305、ロボジツ (コラージュ)	絵画	変形、汚れ	ドライクリーニング マットの変更	森 京子 (館内処置)
8	パウル・ クレー	回心した女の墮落 (グワッシュ、油彩)	絵画	変形、汚れ	ドライクリーニング マットの改造	森 京子 (館内処置)
9	恩地孝四郎	花 (木版)	版画	旧テープ跡	除去、マット変更	森 京子
10	恩地孝四郎	イマージュ No.2 (木版)	版画	旧テープ跡	除去、マット変更	森 京子
11	恩地孝四郎	リリック No.24 (木版)	版画	変形	コールドプレス、マットの 変更	森 京子 (館内処置)
12	谷中 安規	飛ぶ首 (木版)	版画	変形、しみ	脱酸処理、プレス、ブック 型マットにヒジン留め	森 京子 (館内処置)

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	処置前の状態	処置内容	処置者
13	ゲルハルト・マルクス	無題(マイスター版画集) (木版)	版画	旧台紙に糊付け	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
14	ゲオルク・ムッヘ	無題(マイスター版画集) (木版)	版画	旧台紙に糊付け	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
15	ロータル・シュライヤー	無題(マイスター版画集) (木版)	版画	旧台紙に糊付け	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
16	ジェームス・アンソール	悪魔の戦い (エッチング)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
17	ジェームス・アンソール	キリストのブリュッセル入城 (エッチング)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
18	ライオネル・ファイニンガー	緑の橋 (エッチング)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
19	ライオネル・ファイニンガー	ダースドルフ (木版)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
20	エーニッヒ・ヘッケル	疲れ (木版)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
21	エーリッヒ・ヘッケル	現代ドイツ美術展ポスター (木版)	版画	旧台紙(厚さの不十分な酸 性紙)にヒンジ留め	除去、新ブック型マットに ヒンジ留め	森 京子 (館内処置)
22	伊東 深水	大島の黎明 (絹本着色)	日本画	軸首の接続不良	膠による再接着	長屋 (館内処置)

新規額製作作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的
1	辰野登恵子	Aug.-Oct.1992	1992	エッチング、リトグラフ	1997年新収蔵作品 ポートフォリオの形状での購入。
2	荒川 修作	それはその中に	1978	シルクスクリーン、リトグラフ	もともと構造上の欠陥により、旧額の一つが 作品とガラスの自重により破損したため。

所蔵作品の貸出

1997年度の貸出状況

国内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、
展覧会の内容とその意義、当該作品の保存状態、所蔵作品展の
展示計画などを十分に考慮し、愛知県美術館所蔵作品貸出要領
に則って作品の貸出を行った。

貸出の概要

分野	点数
日本画	14点
洋画	33点
版画	17点
素描	23点
立体	4点
工芸	24点
計	(38件分) 115点

貸出作品一覧

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
1. 長谷川利行 鳥海青児	洒売場 うずくまる	1997.4.4 - 10.17	洲之内徹の気まぐれ美術館	目黒区美術館
2. 松樹路人	去り行く夏に	1997.4.9 - 5.30	松樹路人展	北海道立近代美術館
3. 杉本健吉	阿修羅像	1997.4.10 - 6.5	奈良国立博物館の名宝 ――世紀の軌跡――	奈良国立博物館
4. 竹内栖鳳	狐狸図	1997.4.17 - 6.12	東西画壇の両雄一大観と栖鳳	練馬区立美術館
5. 土谷 武	植物空間	1997.4.22 - 6.18	土谷 武展	伊丹市立美術館
6. 河合卯之助 河合卯之助 河合卯之助 河合卯之助 河合卯之助 河合卯之助 河合卯之助	青瓷菓子鉢 色絵コーヒー具 草花色絵大皿 象嵌壺 蓋物 陶鈴 菓子盛器	1997.6.1 - 9.10	河合卯之助展	宮城県美術館
7. 山口勝弘 小林敬生	港No2 版画集「静止した刻」より「早曉A」	1997.6.26 - 8.26	冒険美術Ⅲ 一水のいたずら一	滋賀県立近代美術館
8. 稗田一穂	孔雀と女	1997.7.11 - 8.27	稗田一穂展	田辺市立美術館
9. 平山郁夫	楼蘭の遺跡・昼	1997.7.18 - 8.26	平山郁夫展	長野県信濃美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
10. 福本 章	樹のある風景	1997.7.25. - 8.8	小山敬三美術賞受賞記念福本章展	東京日本橋高島屋6階画廊
11. 坂本繁二郎 安井曾太郎 大沢鉦一郎	海岸の家 婦人像 自画像	1997.7.25 - 9.11	描かれた青春 ー1910年代がおもしろいー	秋田県立近代美術館
12. 伊藤清永	鏡前	1997.8.22 - 11.6	文化勲章受章記念	大丸神戸店 大丸ミュージアム・KOBÉ
伊藤清永	爽節	1997.8.22 - 11.6	伊藤清永展	大丸東京店 大丸ミュージアム・東京
13. 熊谷守一	鳥	1997.8.25 - 12.24	熊谷守一展	天童市美術館 足利市美術館 浜松市美術館
14. 山元春挙	溪村暮靄図	1997.9.4 - 10.18	1900年（明治33）巴里、東京、新潟 近代日本画への模索と展開	新潟県立近代美術館
15. オーギュスト・ロダン	歩く人	1997.9.25 - 11.12	荻原守衛と日本のロダニズム	碌山美術館
16. 中村岳陵	芦に白鷺鶴図	1997.10.3 - 11.14	鳥ー飛翔と静穏の美ー	式年遷宮記念神宮美術館
17. 横山大観	飛泉	1997.10.3 - 12.2	近代日本画への道程 ー「日本画」の19世紀展	徳島県立近代美術館
18. 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎	太陽顔に照る（抒情五種のうち） 生はさみしき夜半目ざめて涙ながれながれる（抒情五種のうち） くるしみのうち懐に入るものあり（抒情五種のうち） 苦悩のうちに光る（抒情五種のうち） あかるい時（抒情五種のうち） いとなみ祝福せらる（抒情五種のうち） 相信ずるころ（抒情五種のうち） 慈に泪す（抒情五種のうち） 躍る（抒情五種のうち） 真実ひと輝きめぐる（抒情五種のうち） わかれとのぞみと1（抒情五種のうち） わかれとのぞみと2（抒情五種のうち） わかれとのぞみと2（抒情五種のうち） わかれとのぞみと3（抒情五種のうち） わかれとのぞみと4（抒情五種のうち） わかれとのぞみと5（抒情五種のうち）	1997.10.4 - 11.18	瓦と喜怒哀楽	高浜市やきものの 里かわら美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
19. 宮永岳彦 宮脇 晴	鹿鳴館 タキビオシドリ	1997.10.6 - 10.13 1997.10.6 - 10.13	名古屋市立工芸高校 創立80周年記念展覧会	名古屋市立博物館3階
20. 林 重義	舞妓（赤）	1997.10.9 - 12.17	阪神間モダニズム展	兵庫県立近代美術館
21. 舟越 桂	肩で眠る月	1997.10.10 - 12.5	第18回平櫛田中賞記念 舟越桂展	井原市立田中美術館
22. 木村莊八 木村莊八	壺を持つ女 わたしのラヴァさん	1997.10.12 - 11.28	福田平八郎と六潮会展	大分県立芸術会館
23. 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真 佐分 真	裸婦 アリス 印度の女 アバッシュ・シャルボニエ 横たわる婦人 テーブルに向かう婦人 風景 婦人像（マフラー） ネックレスの女 三人の裸婦 婦人像（マガジンを読む） 婦人像（横たわる）	1997.10.14 - 11.20	画家佐分眞の軌跡	一宮市博物館
24. ライオネル・ファイニンガー 安井曾太郎 安井曾太郎 河野通勢 久米桂一郎 大沢鉦一郎	夕暮れの海Ⅰ 人体坐像 静物 自画像 秋景 大曽根風景	1997.10.21 - 12.8	特別展—光の方へ …（Into the Light）	京都市美術館
25. 中村 彝 中村 彝	少女裸像 静物	1997.10.22 - 12.17	中村 彝展	新潟県立近代美術館
26. 平山郁夫	楼蘭の遺跡・昼	1997.11.27 - 12.17	平山郁夫が描く未来への文化遺産 —アジアの懸け橋	三越美術館・新宿
27. 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉	一閑張すほう染手篋 一閑張桜絵手篋 張抜羊園文手篋 張抜蓋物（うり） 張抜蓋物（うり） 張抜蓋物（りんご）	1998.2.16 - 4.6	テーマ展示「藤井達吉」	豊田市美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
27. 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉 藤井達吉	張抜蓋物（なす） 張抜蓋物（なす） 張抜蓋物（くり） 戦場ヶ原 二月堂のざくろ 梅の花（落花） むれゆく鷺 かいとる舟人 いづくへ 竹 墨絵山（六曲一双）	1998.2.16 - 4.6	テーマ展示「藤井達吉」	豊田市美術館
28. 川崎千虎 川崎千虎	佐々木高綱被甲図 頼朝朽木隠れ	1998.2.27 - 4.6	近代のやまと絵―古典美の再発見―	岐阜県美術館
29. 森村宜福	四季草花図	1998.2.27 - 4.6	近代のやまと絵―古典美の再発見―	岐阜県美術館
30. 笠井誠一	ウクレレと冬瓜と グロリオサのある卓上静物	1998.2.22 - 3.6	日本芸術院受賞候補者選考のため	日本芸術院
31. 加山又造	黒い鳥	1998.2.25 - 7 - 2.	加山又造展	東京国立近代美術館 北海道立近代美術館
32. 伊東深水	大島の黎明	1998.3.2 - 3.16	生誕100年記念 伊東深水展	名都美術館
33. 大沢鉦一郎	ジンベを着た少女	1998.3.9 - 5.22	日本美術院100周年記念特別展 「近代日本美術の軌跡」	東京国立博物館
34. 里見勝蔵 須田国太郎	裸婦 夏	1998.3.18 - 5.20	名作でたどる近代日本洋画の歩み	高知県立美術館
35. 大沢鉦一郎 木村荘八	大曽根風景 壺を持つ女	1998.3.20 - 5.14	緑と土への思い 一劉生とその時代、そしてその後	茨城県近代美術館
36. 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治 笈 忠治	裸体習作 横顔1 横顔 横顔2 横顔3 正面の顔2 母の像1 中上君	1998.3.25 - 5.31	笈 忠治展	刈谷市立美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
36. 寛 忠治	少女の顔	1998.3.25 - 5.31	寛 忠治展	刈谷市立美術館
寛 忠治	棚橋さんの像			
寛 忠治	名大四ツ谷付近 1			
寛 忠治	名大四ツ谷付近 2			
寛 忠治	名大四ツ谷付近 4			
寛 忠治	川名遠望			
37. 佐伯祐三	自画像	1998.3.26 - 11.15	生誕100年記念－佐伯祐三展	大阪市立美術館 福岡県立美術館 宮城県立美術館 笠間市立美術館
38. 上村松篁	玄鶴	1998.3.27 - 5.10	姫路市立美術館開館十五周年 神戸新聞創刊百周年記念 上村家百年の画業 松園・松皇・淳之展	姫路市美術館

所蔵作品展・小企画展（テーマ展示）

所蔵作品展

所蔵作品によって20世紀の美術を系統的に展示紹介することを基本として、大きく3期に分けて所蔵作品展を開催した。そのうち第Ⅰ期と第Ⅱ期はそれぞれ前・後期に分け、日本画・素描・版画など部分的に展示替を行った。

小企画展（テーマ展示）

所蔵作品展示エリアの一部を用いて、特定のテーマに基づく小企画展を年間2～4回ほど開催している。これは必ずしも所蔵作品によらず、20世紀美術史上重要な作家や運動、現代美術の新しい動向などを簡潔・敏捷に紹介したり、学芸員の調査研究活動を展示によって発表する場として企画されている。

1997年度は下記の2展を開催した。

- 1「コラボレーション：岡本敦生＋野田裕示展」
- 1997年3月28日－5月25日（第Ⅰ期前期）
- 2「葡萄弾 加納光於 オブジェ 1968－1997」
- 7月25日－9月7日（第Ⅱ期前期）

1997年度所蔵作品展開催状況

展示期	会期・日数	展示作品数（小企画展は含まない）
第Ⅰ期前期	1997年3月28日－5月25日(51日間)	絵画89 彫刻22 版画18 計129
後期	5月30日－7月13日(39日間)	絵画89 彫刻24 素描14 計127
第Ⅱ期前期	7月25日－9月7日(39日間)	絵画68 彫刻24 版画21 計113
後期	9月12日－11月3日(46日間)	絵画69 彫刻35 素描10 版画14 計128
第Ⅲ期	11月14日－1998年1月15日(48日間)	絵画83 彫刻36 計119

展示室構成（○中の数字は展示室番号）

第Ⅰ期前期	④近現代の洋画 ⑤20世紀の美術 ⑥小企画展：コラボレーション 岡本敦生＋野田裕示 ⑦近代の日本画 ⑧近現代の版画
第Ⅰ期後期	③近代日本の素描（④⑤⑦は前期と同じ） ⑥特集展示：若林 奮 大気中の緑色に属するもの ⑧特集展示：アンドリュウ・ワイエスの世界Ⅰ
第Ⅱ期前期	④近現代の洋画 ⑤20世紀の美術 ⑥小企画展：葡萄弾 加納光於 オブジェ 1968－1997 ⑦表現主義の版画 ⑧ヨーロッパの近代彫刻
第Ⅱ期後期	④近現代の洋画 ⑤20世紀の美術 ⑥闘争の時代の絵画 ⑦近代の彫刻 ⑧キュビズムと構成主義の版画
第Ⅲ期	④近現代の美術 ⑤20世紀の美術 ⑥日本画Ⅰ ⑦日本画Ⅱ 特集展示：岸田劉生 ⑧特集展示：アンドリュウ・ワイエスの世界Ⅱ

■1997年度 第Ⅰ期 前期（3月28日－5月25日）

展示室4 近現代の洋画			山口 薫 ボタン雪と騎手 1953			アンリ・マティス 待つ 1921－22		
〈絵 画〉			香月泰男 散歩 1953			パウル・クレー 女の館 1921		
高橋由一 厨房具 1878頃			荻須高德 線路に面した家 1955			ジョアン・ミロ 絵画 1925		
高橋由一 不忍池 1880頃			脇田 和 断層の人と鳥 1960			ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I 1927		
黒田清輝 暖き日 1897			牛島憲之 埋れる船 1962			ジョージア・オキーフ 抽象 第6番 1928		
山下新太郎 白耳義の少女 1909			麻生三郎 胴体と頭と電球 1964			ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ) 1933		
梅原龍三郎 若き羅馬人 1909			〈彫 刻〉			ニコラ・ド・スタール コンポジション 1948		
岸田劉生 斎藤与里氏像 1913			荻原守衛 女の胴 1907			アド・ラインハート No.114 1950		
岸田劉生 高須光治君之肖像 1915			戸張孤雁 立てる女 1911			ジャン・デュビュッフエ 二人の脱走兵 1953		
中村 彝 少女裸像 1914			柳原義達 黒人の女 1956			マックス・エルンスト ボーランドの騎士 1954		
坂本繁二郎 海岸の家 1915			展示室5 20世紀の美術			サム・フランシス 消失にむかう地点の青 1958		
小出橋重 N婦人像 1918			〈絵 画〉			フランク・ステラ リヴァー・オヴ・ボンズ IV 1969		
小出橋重 蔬菜静物 1925			エドワード・ジョン・ポインター 世界の若かりし頃 1891			アントニ・タピエス コンポジション 1977		
大沢鉦一郎 大曽根風景 1919			エドゥワール・ヴエイヤール 窓辺の女 1898			クリスト 旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包 1986		
古賀春江 夏山 1927			アルベール・マルケ ノートルダムの後陣 1902			〈立 体〉		
木下孝則 読書 1931			パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女 1902			オーギュスト・ロダン 歩く人 1900		
佐分 真 横たわる婦人 1932頃			グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903			エルンスト・バルラッハ 忘我 1911－12		
伊藤 廉 ギター奏手 1932			ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺 1906			ハンス (ジャン)・アルプ 森 1917頃		
国吉康雄 荒天 1936			アメデオ・モディリアーニ カリアティード 1911－13			ルイズ・ニーヴェルスン 漂う天界 1959－66		
安井曾太郎 承德喇嘛廟 1938			エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912			ジョージ・シーガル ロバート&エセル・スカルの肖像 1965		
須田国太郎 夏 1941			エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915			〈絵 画〉		
岡 鹿之助 窓 1949			フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開 1919			藤田嗣治 青衣の少女 1925		
三岸節子 魚とインカの壺 1952			ジャック・ヴィヨン 存在 1920			田淵安一 有機的表象 1955		

オノサト トシノブ	三つの黒
1958	
瑛九	田園
1959（寄託作品）	
斎藤義重	作品
1962	
堂本尚郎	絵画1962－25
1962	
山口長男	屏形
1963	
桑山忠明	茶白青
1968	
中西夏之	M字型－Ⅱ
1981	
難波田龍起	原初の風景B
1987	
野見山暁治	伝承のかたち
1988	
加納光於	繁み・運動・エレメントB
1988	
松本陽子	光は荒野の中に拡散している
1993	
辰野登恵子	Untitled 95－1
1995	

展示室6 小企画展

コラボレーション：岡本敦生＋野田裕示
(5月18日まで)

展示室4 近代の日本画

<絵 画>

村上華岳	梅溪山道
1914	
前田青邨	江島詣
1917頃	
萬鉄五郎	砂丘風雨
1920頃	
小茂田青樹	柿
1919頃	
小茂田青樹	漁村早春
1921	
入江波光	南欧小景
1923	
村上華岳	魔障之図
1923	
速水御舟	西郊小景
1923	

小川芋銭	陶淵明桃花源詩意
1925頃	
小林古径	洗濯場 その1
1926	
小林古径	洗濯場 その2
1926	
小林古径	洗濯場 その1（下絵）
1926	
小林古径	洗濯場 その2（下絵）
1926	
土田麦僊	蓮華（下図）
1930	
安田靉彦	月の兎
1934	
前田青邨	朝鮮五題 水汲み
1939（寄託作品）	
前田青邨	朝鮮五題 魚売り
1939（寄託作品）	
岸田劉生	四時競甘
1925頃（寄託作品）	

展示室8 近現代の版画

<版 画>

長谷川潔	アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船
1930	
長谷川潔	飾り棚のオブジェ
1962	
駒井哲郎	夜の魚
1951	
駒井哲郎	海底の祭
1951	
駒井哲郎	時間の迷路
1952	
浜口陽三	ざくろ
1957	
清宮質文	何処へ
1963	
池田満寿夫	タエコの朝食
1963	
加納光於	PENINSULAR半島状の! No.6
1967	
吉原英雄	シーソー I
1968	
木村光佑	OUT・OF・TIME－24
1970	
中林忠良	囚われる風景 1
1973	

中林忠良	転移' 84－地－1
1984	
黒崎 彰	Secret Code 6
1973	
吉岡弘昭	鳥女幻想B
1974	
野田哲也	Diary:Feb. 10th '78
1978	
野田哲也	Diary:May 3rd '87 at 2-12-4 Nikkodai Kasiwa－shi
1987	
長岡国人	6人の日本人ノーベル賞受賞者を称える
1986－87	

10階ロビー、前室など

<絵 画>

平松礼二	峠四題・花の季
1992	
島田章三	石庭女人図
1976	
佐々木豊	おんなの部屋
1979	
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー
1960－61	

<立 体>

ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年
1897	
本郷 新	無幸の民「油田地帯」
1970	
工藤哲巳	果てしなく綾糸がまとわる マルセル・デュシャン ー予定 された未来と固定化された過 去の間での瞑想ー
1977	
荒木高子	砂の聖書
1983	

屋外展示スペースなど

<立 体>

コルネリス・ジットマン	カリブの女
1983	
アルナルド・ポモドーロ	飛躍の瞬間
1984	
加藤昭男	大地
1986	
小田 襄	円柱の構造
1988	

今井瑾郎 1992	大地
--------------	----

8階ロビー

■1997年度 第Ⅰ期 後期（5月30日－7月13日）

展示室3 近代日本の素描

〈素描・水彩〉

戸張孤雁 制作年不詳	卓にふせる
戸張孤雁 制作年不詳	玉乗り
安井曾太郎 1907	人体（男）
安井曾太郎 1907	人体（女）
坂本繁二郎 制作年不詳	張物下絵
岸田劉生 1918	葵
大沢鉦一郎 1919頃	自画像
宮脇 晴 1922	樹
宮脇 晴 1922	烏打帽の自画像
古賀春江 制作年不詳	川沿いの家
小出楯重 1930	裸婦
巖光 1934	自画像
松本竣介 1941	ニコライ堂

展示室4 近現代の洋画

※第Ⅰ期前期から高橋由一〈不忍池〉のみが抜けた

展示室5 20世紀の美術

※第Ⅰ期前期と同じ

〈立 体〉	
エミール＝アントワーン・ブールデル 1909	ベネローブ
エミール＝アントワーン・ブールデル 1914－15	力

展示室6 特別展示：

若林 奮 大気中の緑に属するものI

〈立 体〉

若林 奮 大気中の緑色に属するものI
1982

〈素描・立体〉

若林 奮 大気中の緑色に属するものの制作ノート(11点)
1981－82

展示室7 近代の日本画

※第Ⅰ期前期と同じ

展示室8 特別展示：

アンドリュース・ワイエスの世界Ⅰ

〈絵画〉

アンドリュース・ワイエス 1954（寄託作品）	ティールの島
アンドリュース・ワイエス 1957（寄託作品）	干し草の棚
アンドリュース・ワイエス 1960（寄託作品）	トムの小屋
アンドリュース・ワイエス 1961（寄託作品）	ピーター・ワイエス・ハード
アンドリュース・ワイエス 1962（寄託作品）	家庭菜園
アンドリュース・ワイエス 1965（寄託作品）	さらされた場所
アンドリュース・ワイエス 1968（寄託作品）	クリスティーナのティーポット
アンドリュース・ワイエス 1969（寄託作品）	オルソン家の終わり

エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	自由
エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	雄介
エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	勝利

アンドリュース・ワイエス 1969（寄託作品）	リンゴ酒の樽
アンドリュース・ワイエス 1969（寄託作品）	フィンランド人
アンドリュース・ワイエス 1969（寄託作品）	雨雲
アンドリュース・ワイエス 1974（寄託作品）	酒密輸入 (ウォルター・アンダーソンの習作)
アンドリュース・ワイエス 1974/45（寄託作品）	酒密輸入

10階ロビー、前室など

〈絵 画〉

佐々木四郎 1979	閉ざされた空間 Ⅲ M-5
島田章三 1976	石庭女人図
奥谷 博 1966	貝と河豚
佐々木豊 1979	おんなの部屋
樫田伸也 1982	通り過ぎた風景
モーリス・ルイス 1960－61	デルタ・ミュー

〈立 体〉

柳原義達 1982	風の中の鴉
本郷 新 1970	無辜の民「油田地帯」
工藤哲巳 1977	果てしなく綾糸がまとわる マルセル・デュシャン ー予定 された未来と固定化された過 去の間での瞑想ー
荒木高子 1983	砂の聖書

ジャコモ・マンズー	踊りのステップ
1953	

屋外展示スペース、8階ロビーなど

※第Ⅰ期前期に同じ

■1997年度 第Ⅱ期 前期 (7月25日-9月7日)

展示室4 近現代の洋画

〈絵 画〉

高橋由一	厨房具
1878頃	
高橋由一	不忍池
1880頃	
黒田清輝	暖き日
1897	
山下新太郎	白耳義の少女
1909	
梅原龍三郎	若き羅馬人
1909	
岸田劉生	斎藤与里氏像
1913	
岸田劉生	高須光治君之肖像
1915	
中村 彝	少女裸像
1914	
青木 繁	太田の森
1902	
小出櫓重	N婦人像
1918	
小出櫓重	蔬菜静物
1925	
大沢鉦一郎	大曽根風景
1919	
国吉康雄	帽子の女
1920	
古賀春江	夏山
1927	
村井正誠	ゴルフジュアンの船
1929	
村井正誠	Cité B
1940	
小島善太郎	房州風景
1930	
野口弥太郎	門
1931頃	
伊藤 廉	ギター奏手
1932	

北川民次	タスコからの眺望
1933	
矢橋六郎	南仏サントロップにて
1932	
矢橋六郎	女の肖像
1936	
坂井範一	浴後
1936	
猪熊弦一郎	馬と裸婦
1936	
安井曾太郎	承德喇嘛廟
1938	
須田国太郎	夏
1941	
岡 鹿之助	窓
1949	

〈立 体〉

萩原守衛	女の胴
1907	
戸張孤雁	立てる女
1911	

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

エドゥワール・ヴュイヤール	窓辺の女
1898	
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣
1902	
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女
1902	
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)
1903	
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺
1906	
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード
1911-13	
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物
1912	
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)
1915	

フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開
1919	
ジャック・ヴィヨン	存在
1920	
アンリ・マティス	待つ
1921-22	
パウル・クレー	女の館
1921	
ジョアン・ミロ	絵画
1925	
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I
1927	
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番
1928	
ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
1933	

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭
1935	

ニコラ・ド・スタール	コンポジション
1948	

アド・ラインハート	No.114
1950	

ジャン・デュビュッフエ	二人の脱走兵
1953	

マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
1954	

サム・フランシス	消失にむかう地点の青
1958	

フランク・ステラ	リヴァー・オヴ・ボンズ IV
1969	

アントニ・タピエス	コンポジション
1977	

〈立 体〉

ルイズ・ニーヴェルスン	漂う天界
1959-66	

ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像
1965	

〈絵 画〉

藤田嗣治	青衣の少女
1925	

田淵安一 1955	有機的表象
オノサト 1958	トシノブ 三つの黒
瑛九 1959（寄託作品）	田園
斎藤義重 1962	作品
堂本尚郎 1962	絵画1962－25
山口長男 1963	屏形
桑山忠明 1968	茶白青
中西夏之 1981	M字型－Ⅱ
難波田龍起 1987	原初的風景B
野見山暁治 1988	伝承のかたち
加納光於 1988	繁み・運動・エレメントB
松本陽子 1993	光は荒野の中に拡散している
辰野登恵子 1995	Untitled 95－1

展示室6 小企画展：

「葡萄弾」加納光於 オブジェ 1998－1997

展示室7 表現主義の版画

〈版 画〉

ジェームズ・アンソール 1888	悪魔の戦い
ジェームズ・アンソール 1898	キリストのブリュッセル入城
ケーテ・コルヴィッツ 1906	畠を耕す者

■1997年度 第Ⅱ期 後期 （9月12日－11月3日）

展示室4 近現代の洋画

〈絵 画〉

ケーテ・コルヴィッツ 1921	死の膝に抱かれる女
エミール・ノルデ 1906	騎士
エミール・ノルデ 1908	自画像
エミール・ノルデ 1917	おしゃべり
ライオネル・ファイニンガー 1910－11	緑色の橋
ライオネル・ファイニンガー 1918	ダースドルフ
パウル・クレー 1904	喜劇役者 インヴェンション4
パウル・クレー 1913（寄託作品）	情熱の園
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1917	三本の道
ヴァイルヘルム・レームブルック 1913	母と子（幻影Ⅱ）
エーリヒ・ヘッケル 1913	疲れ
エーリヒ・ヘッケル 1920	第1回現代ドイツ美術展ポスター
マックス・ベックマン 1917	新年おめでとう
マックス・ベックマン 1918	あくびをする人達
マックス・ベックマン 1918	カフェミュージック
マックス・ベックマン 1919	自画像
オスカー・ココシュカ 1907	夢見る少年たち(11点)
エゴン・シーレ 1914	しゃがみこむ女
〈立 体〉	
ジョルジュ・ミンヌ 1897	聖遺物箱を担ぐ少年

展示室8 ヨーロッパの近代彫刻

〈立 体〉

オーギュスト・ロダン 1900	歩く人
ケーテ・コルヴィッツ 1913	恋人たちⅡ
エルンスト・バルラッハ 1911－12	忘我
エルンスト・バルラッハ 1920	母なる大地Ⅱ
レイモン・デュシャン=ヴィヨン 1913	恋人たち
ハンス(ジャン)・アルプ 1917	森
ハンス(ジャン)・アルプ 1932	星座
アレクサンダー・アーチベンコ 1912	歩く女

10階ロビー、前室など

〈絵 画〉

八島正明 1976	忘れたわけではない
モーリス・ルイス 1960－61	デルタ・ミュー

〈立 体〉

柳原義達 1982	風の中の鴉
エミール=アントワヌ・ブールデル 1908	両手のペートーヴェン
ヴァイルヘルム・レームブルック 1913	立ち上がる青年

8階ロビー、屋外展示スペースなど

※第Ⅰ期に同じ

黒田清輝 1897	暖き日
--------------	-----

山下新太郎 1909	白耳義の少女
---------------	--------

梅原龍三郎 1909	若き羅馬人
安井曾太郎 1912頃	婦人像
坂本繁二郎 1915	海岸の家
岸田劉生 1915	高須光治君之肖像
木村莊八 1915	壺を持つ女
小出楯重 1918	N婦人像
国吉康雄 1920	帽子の女
小出楯重 1925	蔬菜静物
林 俊衛 1925	サント・ヴィクトワール
前田寛治 1925	褐衣婦人像
中山 巍 1927	スープ飲む老人
古賀春江 1927	夏山
清水登之 1929	森に憩う人
木下孝則 1931	読書
野口弥太郎 1931頃	門
安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟
山口 薫 1953	ボタン雪と騎手
香月泰男 1953	散歩
森 芳雄 1954	女たち
古茂田守介 1957	裸婦A
脇田 和 1960	断層の人と鳥
麻生三郎 1964	胴体と頭と電球
〈立 体〉	
高田博厚 1937	女のトルソ

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

エドゥワール・ヴューヤール 1898	窓辺の女
アルペール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
パブロ・ピカソ 1902	青い肩掛けの女
グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)
ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺
アメデオ・モディリアーニ 1911-13	カリアティード
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912	グラスのある静物
エミール・ノルデ 1915	静物L(アマゾン、能面等)
フランティšek・クプカ 1919	灰色と金色の展開
ジャック・ヴィヨン 1920	存在
アンリ・マティス 1921-22	待つ
パウル・クレー 1921	女の館
ジョアン・ミロ 1925	絵画
ジョージア・オキーフ 1928	抽象 第6番
ベン・ニコルソン 1933	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
ポール・デルヴォー 1943	こだま
ニコラ・ド・スタール 1948	コンポジション
アド・ラインハート 1950	No.114
マックス・エルンスト 1954	ポーランドの騎士
ジャン・デュビュッフェ 1953	二人の脱走兵
サム・フランシス 1958	消失にむかう地点の青
モーリス・ルイス 1960-61	デルタ・ミュー

ルーチョ・フォンターナ 1960	空間概念
フランク・ステラ 1969	リヴァー・オヴ・ボンズ IV
〈立 体〉	
アレクサンダー・アーチベンコ 1912	歩く女
アレクサンダー・コルダール 1944	片膝ついて
ルイズ・ニューヴェルスン 1959-66	漂う天界
イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン
ジョージ・シーガル 1965	ロバート&エセル・スカルの肖像
〈水 彩〉	
ジャコモ・バッラ 1914	太陽の前を通過する水星(習作)
〈絵 画〉	
藤田嗣治 1925	青衣の少女
オノサト トシノブ 1958	三つの黒
瑛九 1959(寄託作品)	田園
難波田龍起 1961	萌
斎藤義重 1962	作品
桑山忠明 1968	茶白青
松本陽子 1993	光は荒野の中に拡散している
辰野登恵子 1995	Untitled 95-1
展示室6 闘争の時代の絵画	
〈絵 画〉	
小山田二郎 1955	こわす者
小山田二郎 1956	愛
尾藤 豊 1957	モスクワの地下鉄

池田龍雄 1956	黒い機械
中村 宏 1958	内乱期

〈水 彩〉

三上 誠 1954	黙示B
三上 誠 1955	胸のはな（下絵Ⅱ）
近藤文雄 1962	裁き
近藤文雄 1962	あいつ
近藤文雄 1975	連なるとみえて
小山田二郎 1978	ロマンス
小山田二郎 1978	夏の虫

〈版 画〉

浜田知明 1954	仮標
浜田知明 1954	刑場A
浜田知明 1956	人
浜田知明 1958	地方名士

〈立 体〉

柳原義達 1956	黒人の女
--------------	------

展示室7 近代の彫刻

〈立 体〉

ジョルジュ・ミンヌ 1897	聖遺物箱を担ぐ少年
ケーテ・コルヴィッツ 1913	恋人たちⅡ
レーモン・デュシャン=ヴィヨン 1913	恋人たち
ハンス(ジャン)・アルプ 1917 頃	森
ハンス(ジャン)・アルプ 1932	星座

ジャーコモ・マンズー 1947－66	ある主題によるヴァリエーション
-----------------------	-----------------

荻原守衛 1907	女の胴
戸張孤雁 1911	立てる女
戸張孤雁 1924	煌めく嫉妬
中原梯二郎 1919－21	平櫛田中像
中原梯二郎 1919	憩える女

展示室8 キュビズムと構成主義の版画

〈版 画〉

ジャック・ヴィヨン 1913	食卓
ジャック・ヴィヨン 1913	横顔のイヴオンス
ジャック・ヴィヨン 1914	機械のある工場
カシ米尔・マレーヴィチ 1913	農夫
カシ米尔・マレーヴィチ 1913	建設者の完全な肖像
カシ米尔・マレーヴィチ 1913	祈り
カシ米尔・マレーヴィチ 1913	飛行機と汽車に乗った男の同時の死
パブロ・ピカソ 1909	静物、果物皿
パブロ・ピカソ 1910	「聖マトレル」のための挿絵

パブロ・ピカソ 1912	男の顔
パブロ・ピカソ 1914	男と犬
パブロ・ピカソ 1915	ギターを持つ男
ジョルジュ・ブラック 1907－08	裸婦習作
ジョルジュ・ブラック 1909－10	小さなキュビズムのギター
ジョルジュ・ブラック 1911	FOX
ジョルジュ・ブラック 1911	BASS

ジョルジュ・ブラック 1911	PAL
ジョルジュ・ブラック 1911	JOB
ジョルジュ・ブラック 1911	コンポジション(静物Ⅰ)
ジョルジュ・ブラック 1912	コンポジション(グラスのある静物)
ルイ・マルクーシ 1912－20	ギヨーム・アポリネールの肖像
ラースロー・モホリ=ナジ 1922－23	コンストラクション
ラースロー・モホリ=ナジ 1922－23	コンストラクション
ラースロー・モホリ=ナジ 1922－23	コンストラクション
ラースロー・モホリ=ナジ 制作年不詳	無題

10階ロビー、前室など

〈絵 画〉

アントニ・タピエス 1977	コンポジション
田淵安一 1964	妊女たち
加藤金一郎 1964	HEKEBEKE
丹羽和子 1964	占う女
檀田伸也 1991	通り過ぎた風景

〈立 体〉

エルンスト・バルラッハ 1911－12	忘我
ヴィルヘルム・レームブルック 1913	立ち上がる青年
工藤哲巳 1977	果てしなく綾糸がまとわる マルセル・デュシャン ー予定さ れた未来と固定化された過去の 間での瞑想ー
柳原義達 1982	風の中の鴉
久野 真 1982	銅鉄による作品
荒木高子 1983	砂の聖書

北山善夫	はなはだ大きいと言うべきである
1984	

屋外展示スペース、8階ロビーなど

第1期に同じ

■1997年度 第Ⅲ期 (11月14日－1999年1月15日)

展示室4 近現代の洋画

〈絵 画〉

高橋由一	厨房具
1878頃	
高橋由一	不忍池
1880頃	
黒田清輝	暖き日
1897	
山下新太郎	白耳義の少女
1909	
梅原龍三郎	若き羅馬人
1909	
安井曾太郎	婦人像
1912頃	
坂本繁二郎	海岸の家
1915	
岸田劉生	高須光治君之肖像
1915	
大沢鉦一郎	ジンベを着た少女
1920	
小出櫓重	N婦人像
1918	
小出櫓重	蔬菜静物
1925	
林 俊衛	サント・ヴィクトワール
1925	
佐伯祐三	自画像
1917	
前田寛治	褐衣婦人像
1925	
長谷川利行	酒売場
1927	
伊藤 廉	肘をつく女
1929	
里見勝蔵	裸婦
1930	
安井曾太郎	承德喇嘛廟
1938	
岡 鹿之助	窓
1949	

須田国太郎 樹下
1954

海老原喜之助 雪山と樵

山口 薫 ボタン雪と騎手
1953

香月泰男 散歩
1953

森 芳雄 女たち
1954

古茂田守介 裸婦A
1957

脇田 和 断層の人と鳥
1960

麻生三郎 胴体と頭と電球
1964

〈立 体〉

戸張孤雁 立てる女
1911

中原悌二郎 憩える女
1919

高田博厚 女のトルソ
1937

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

エドゥワール・ヴエイヤール 窓辺の女
1898

アルベール・マルケ ノートルダムの後陣
1902

パブロ・ピカソ 青い肩掛けの女
1902

グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士)
1903

ラウル・デュフィ サンタドレスの浜辺
1906

アメデオ・モディリアーニ カリアティード
1911－13

エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物
1912

エミール・ノルデ 静物I(アマゾン・熊面等)
1915

フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開
1919

ジャック・ヴィヨン 存在
1920

アンリ・マティス 待つ
1921－22

パウル・クレー 女の館
1921

ジョアン・ミロ 絵画
1925

ジョージア・オキーフ 抽象 第6番
1928

ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
1933

ポール・デルヴォー こだま
1943

ニコラ・ド・スタール コンポジション
1948

アド・ラインハート Na114
1950

マックス・エルンスト ポーランドの騎士
1954

ジャン・デュビュッフエ 二人の脱走兵
1953

サム・フランシス 消失にむかう地点の青
1958

モーリス・ルイス デルタ・ミュー
1960－61

ジョーゼフ・アルバース 正方形額
1962

フランク・ステラ リヴァー・オヴ・ボンズ IV
1969

アントニ・タビエス コンポジション
1977

〈立 体〉

ケーテ・コルヴィッツ 恋人たちII
1913

レーモン・デュシャン＝ヴィヨン 恋人たち
1913

ハンス（ジャン）・アルプ	森
1917頃	
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女
1912	
アレクサンダー・コールドー	片膝ついて
1944	
ルイズ・ニーヴェルスン	漂う天界
1959－66	
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン
1962	
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像
1965	

〈絵 画〉

藤田嗣治	青衣の少女
1925	
オノサト トシノブ	三つの黒
1958	
瑛九	田園
1959（寄託作品）	
難波田龍起	萌
1961	
斎藤義重	作品
1962	
桑山忠明	茶白青
1968	
辰野登恵子	Untitled 95－1
1995	

展示室6 日本画Ⅰ

〈絵 画〉

平松礼二	峠四題 白い花
1992	
平松礼二	峠四題 家路
1992	
平松礼二	峠四題 雨
1992	
平松礼二	峠四題 花の季
1992	
小松 均	富士山（上・下）
1977	
今野忠一	妙義
1977	
嶋谷自然	南の島
1978	
下保 昭	赤の季
1978	

松本哲男	火焔山残照
1985	
東山魁夷	雪の山郷
1991	

展示室7 日本画Ⅱ

（特集展示：岸田劉生）

〈絵 画〉

小川芋銭	沼四題 泥鰌打
1922（寄託作品）	
小川芋銭	沼四題 檜原
1922（寄託作品）	
前田青邨	朝鮮五題 水汲み
1939（寄託作品）	
前田青邨	朝鮮五題 魚売り
1939（寄託作品）	
岸田劉生	鵠沼画房窗外雪景図 （鵠沼小景）
1922（寄託作品）	
岸田劉生	三酸図
1923（寄託作品）	
岸田劉生	窗外春光（鵠沼小景）
1923（寄託作品）	
岸田劉生	四時競甘
1925頃（寄託作品）	
岸田劉生	生果三酸
制作年不詳（寄託作品）	

岸田劉生	想起猶止渴功
制作年不詳（寄託作品）	
岸田劉生	王母千年
制作年不詳（寄託作品）	
岸田劉生	十楽居（劉生先生夕餉）
制作年不詳（寄託作品）	
岸田劉生	洛東初夏
制作年不詳（寄託作品）	
工藤甲人	坐忘
1982	
加藤東一	伝承
1982	
裨田一穂	雨晴海岸
1982	
田淵俊夫	青木ヶ原
1969	
竹内浩一	風
1981	

展示室8 特集展示：

アンドリュース・ワイエスの世界Ⅱ

〈絵 画〉

アンドリュース・ワイエス	境界線
1967（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	バザーズ・グローリー
1968（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	木材運搬用そり
1968（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	エルウェルの製材所
1968（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	リンゴ酒の樽
1969（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	自由な人
1969（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	トウヒの大枝
1969（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	ノジーシク
1972（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	酒密輸入
1974/45（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	カナダ
1974（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	ケープ族出身
1974（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	カス
1975（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	ローデン・コート
1975（寄託作品）	
アンドリュース・ワイエス	キューカー教徒
1975（寄託作品）	

10階ロビー、前室など

〈絵 画〉

下村良之助	鼓舞
1964	
小嶋悠司	磯土
1985	
岡村桂三郎	白虎
1992	

〈立 体〉

オシップ・ザツキン	チェロのトルソ
1956－57	

柳原義達 1956	黒人の女
工藤哲巳 1977	果てしなく綾糸がまとわる マルセル・デュシャン — 予定 された未来と固定化された過 去の間での瞑想—

柳原義達 1982	風の中の鴉
荒木高子 1983	砂の聖書
原 裕治 1994	アポクリファ No.1

屋外展示スペース、8階ロビーなど
※第Ⅰ期に同じ

小企画展(テーマ展示)

コラボレーション：岡本敦生＋野田裕示 Collaboration : OKAMOTO Atsuo + NODA Hiroji

(1997年3月28日～5月25日：展示室6)

担 当：牧野研一郎

岡本敦生（1951－）はその豊かな発想力でこれまでの石彫の概念を変革する試みを重ねてきた彫刻家である。一方、野田裕示（1952－）は絵画の可能性の飽くなき探究者として試行を重ね、近年その試行の成果とも言うべき強靱で豊かなイメージと色彩を持つ絵画を生み出すにいたった画家である。岡本の彫刻の平滑な表面に野田がのびやかな線や幾何学文様を描くという、大変珍しい彫刻家と画家との共同制作を紹介する趣旨でこのテーマ展は企画された。彫刻を支持体として絵画を描くという着想は野田から、同世代で、絵画と彫刻という違いはあっても野田と同様にミニマリズムからの脱却を企図してきた岡本に伝えられ、岡本がそれに応えるという形でこの共同制作が始められた。その結果としての作品は、それぞれの個性を失うことなく、しかし絵画と彫刻とがひとつに融合し、古代の洞窟壁画を思わせるものとなり、きわめて高い評価を得た。

小冊子：A4判、16ページ

編集 ガallery山口／galleryユーマニテ東京

制作 高田印刷

発行 ガallery山口／galleryユーマニテ東京／愛知県美術館

出品作品：

1. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - I	1996年	白御影石・アクリル
2. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - II	1996年	白御影石・アクリル
3. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - III	1996年	白御影石・アクリル・綿布
4. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - IV	1996年(2点組)	白御影石・アクリル・綿布
5. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - V	1996年	白御影石・アクリル
6. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - VI	1996年	白御影石・アクリル
7. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - XI	1997年	白御影石・アクリル・綿布
8. 岡本敦生	地殻一潜むかたち	1996年	白御影石
9. 野田裕示	Work 984	1995年	アクリル・綿布
10. 岡本・野田共作	Collaboration O & N - XII	1997年	アクリル・綿布・写真プリント

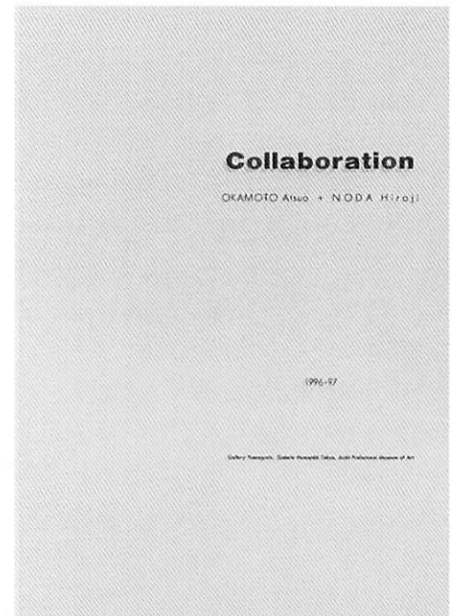
主要関連記事

【新聞】

井上昇「2つの個性が微妙に釣り合い主張し合うーコラボレーション 岡本敦生＋野田裕示展」『中日新聞』

1997年3月31日夕刊

宝生正彦「彫刻・絵画合作鮮やかーコラボレーション 岡本敦生＋野田裕示展」『日経新聞』1997年4月24日朝刊



小冊子表紙

葡萄弾 加納光於オブジェ1968-1997 GRAPESHOTS KANO mitsuo / objets 1968-1997

(1997年7月25日-9月7日：展示室6、前室2、ロビー)

担当：牧野研一郎

企画協力：ギャラリーユマニテ東京／ギャラリーユマニテ名古屋

1950年代のなかばに銅版画家として出発した加納光於は絶えず技法の冒険＝革新に挑み、その成果をその芸術に反映させてきた。1980年代にはその冒険は油彩画にもおよび、顔料という物質をその極限の相貌において捕獲しようと試みるようになる。大岡信との共作『アララットの船あるいは空の蜜』をはじめとするオブジェ制作もまた加納光於の芸術のなかで大きな比重を占めている。しかしながら、これまでそのオブジェ作品の全貌を知る機会はなかった。今回のテーマ展は当初この1960年代末から70年代をとおして数多く制作されたオブジェを紹介しようと企画された。しかし企画が進行するなかで作家は新作の制作に取組み、今回の展示では未発表作品多く含む旧作に、オブジェにおける新たな展開を示す大型の作品が加わることになった。

出品点数：125点

カタログ A4判変形 (30.0×22.4cm)、68ページ

テキスト 馬場駿吉「想像力の海へ乗り出す船——加納光於のオブジェ」

編集：愛知県美術館 牧野研一郎

撮影：鈴木良一

制作：印象社

発行：愛知県美術館

主要関連記事

【新聞】

深山孝彰：『「葡萄弾」加納光於オブジェ展』『日本経済新聞』
1997年7月31日夕刊

馬場駿吉：『「葡萄弾」に射貫かれて 加納光於のオブジェ展』
『中日新聞』1997年8月22日



B2ポスター



小冊子表紙

企画展

愛知県美術館は、収集方針として20世紀美術の系統的なコレクション形成を掲げているが、企画展に関しては、コレクションの性格に沿ったものを中心としつつ、より幅広い時代や分野のものも取り上げることにしている。

そうしたことを念頭に置き、1997年度は6つの企画展を開催した。19世紀末から20世紀前半の重要な画家としてボナールを、第二次大戦後の美術の動きとしてイタリアの現代美術を取り上げた。日本の近代美術としては北脇昇を取り上げた。また、当館のコレクションにはない分野として、デザインのウィリアム・モリスの展覧会を行った。さらに本年度は、20世紀美術の全体を紹介する2つの展覧会を開催した。ひとつはアムステルダム市立美術館のコレクションによる西洋美術中心の展覧会であり、もうひとつは、開館5周年を記念して10階の8つの展示室すべてを愛知県美術館の所蔵作品で構成した「近代美術の100年」展である。

	展覧会名	会 期
1	没後50年 ボナール展	97/03/28－97/05/18
2	理知と幻想のシュルレアリスト 北脇 昇展	97/05/30－97/07/13
3	モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	97/07/25－97/08/31
4	20世紀美術の冒険 アムステルダム市立美術館コレクション展	97/09/12－97/11/03
5	イタリア美術 1945－1995 －見えるものと見えないもの－	97/11/14－98/01/15
6	近代美術の100年 －愛知県美術館コレクションの精華－	98/01/30－98/03/08

没後50年 ボナール展 PIERRE BONNARD

会 期 1997年3月28日(金)～5月18日(日) 45日間
 主 催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送／東海ラジオ放送
 後 援 フランス大使館／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
 協 賛 安田火災
 協 力 日本航空
 観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
 (前売・団体は各200円引)
 担 当 栗田秀法／藤島美菜

内 容 出品点数：80点(油彩69点 リトグラフ版画11点)
 十ボナールのパレット

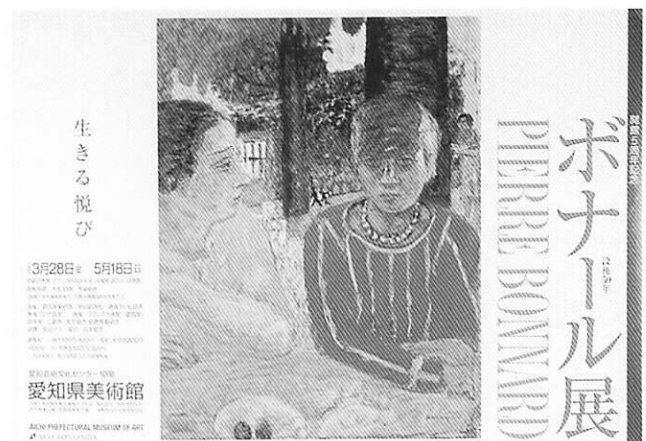
ピエール・ボナールは、ナビ派の画家として、ジャポニズムの画家として、あるいは親密派の画家として日本人に親しまれている画家の一人である。一方、ボナールの今世紀に入ってからの仕事は、フォーヴィスムからシュルレアリスムまでの前衛的な美術運動に積極的に関与しなかったこともあって、遅れてきた印象派というレッテルが貼られ、その魅惑的な世界にもかかわらず同世代のマティスに比べ評価は低かったといっている。自ら「絵画、つまり視神経の冒険の転写」と定義したボナールの絵画世界の正当な評価が始まったのは1970年代のことで、1984年に欧米で開催された「ボナール晩年の絵画」展で再評価の気運が高まったのであった。

今回の展覧会準備に当たって心がけたのは、そうした新しい評価を受けて1910年代以降のボナールの仕事の紹介に重点を置き、ボナールの隠れた実験を明らかにしてみようということであった。展覧会の構成は、編年的なものではなく「日本かぶれのナビ」からアンティミストへ、牧歌的な世界への憧憬、装飾性の追求と完成(裸婦/肖像/静物/窓や鏡などの導入)というモチーフ別の構成とした。こうした構成には若干無理があったことは否めず、そうした指摘も受けもしたものの、それぞれのジャンルでのボナールの仕事の変遷と意味はかなりの程度浮き彫りにできたのではないだろうか。

出品作品は国内の作品が約半数を占めたが、これまでまとまって紹介されることがないため、従来のボナール展とは異なる新鮮な印象を与えることができた。また、しばらく行方が不明であった重要作品のいくつかが日本に所蔵されていることがわかった。海外からの借用についても、もちろんいくつかの側面で完璧は期せなかったものの、過去に当館が作品を貸した美術館がお礼の意味で重要作品を貸してくれたこともあって、かなり満足のいくものとなった。欧米の展覧会から出品依頼がくる



B1ポスター



B3ポスター

ような所蔵作品の充実がいかに企画展の開催に資するかを改めて実感させられたことを申し添えておく。

展覧会カタログ A4判変形 (28.0×22.5cm) 252ページ

テキスト ウルズラ・ペルッキ=ペトリ：「ピエール・ボナールとジャポニスム」(栗田訳)

栗田秀法：「ボナールの印象派摂取と新たな展開の端緒」

図版(章解説・作品解説：栗田秀法)

第1章 「日本かぶれのナビ」からアンティミストへ

第2章 牧歌的な世界への憧憬

第3章 装飾性の追求と完成

裸婦／肖像／静物／窓や鏡などの導入

テキスト ボナールの覚え書き(宮澤政男訳)

藤島美菜編：「日本におけるボナールの紹介」

年譜(栗田秀法訳)／邦語文献(藤島美菜編)／List of Abbreviations

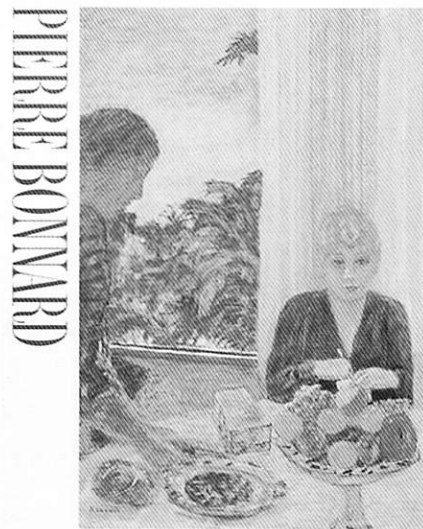
編集 栗田秀法／藤島美菜／宮澤政男(Bunkamura ザ・ミュージアム)

表紙デザイン 木下勝弘

翻訳 山崎由美子

制作 印象社

発行 愛知県美術館／中日新聞社



カタログ表紙

関連事業

記念講演会

・4月5日(土)「ボナールとその時代」

中山公男(群馬県立近代美術館長)

・4月6日(日)「ボナールの印象派摂取と新たな展開の端緒」

栗田秀法

・4月12日(土)「未来の画家ボナールー遠くにあるものの近さ」

松浦寿夫(東京外国語大学助教授)

シンポジウム(日仏美術学会第73回例会として)

4月12日(土)

テーマ：「ピエール・ボナール 未来の画家」

基調報告／進行：松浦寿夫(東京外国語大学助教授)

パネリスト：天野知香(お茶の水女子大学助教授)／鷺見

和紀郎(彫刻家)／栗田秀法

ギャラリー・トーク

4月17日／4月24日／5月1日／5月8日

(いずれも木曜日) 11:00～12:00

子供のための鑑賞会

4月26日(土) 11:00～12:00

学校の先生のためのボナール展説明会

4月26日(土) 13:30～14:15

友の会鑑賞会

4月17日(木) 講師:栗田秀法

飯島宗一:「今月の視角／ピエール・ボナールの絵」『信濃毎日新聞』1994年4月1日夕刊

長谷川三郎:「くボナール展」 独自の光と色彩」『日本経済新聞』地方版1997年4月4日夕刊

栗田秀法:「ボナール展こぼれ話 1～5」『中日新聞』1997年4月8日～12日

井上隆生:「色彩のほとばしる日常の喜び」『朝日新聞』地方版1997年4月12日

加藤登紀子／天野知香:「ボナール展対談」『中日新聞』1997年4月20日

井上昇治:「日常の風景みずみずしく」『中日新聞』1997年4月26日夕刊

木島俊介:「ボナール色彩に愛をめぐって」『中日新聞』1997年5月2日夕刊

宮澤政男:「浮世絵二本の「形」同化」『東京新聞』1997年5月23日夕刊

玉村豊男:「色彩の魔術師1《静物・果物鉢》」『東京新聞』1997年5月24日夕刊

千足伸行:「色彩の魔術師2《窓》」『東京新聞』1997年5月29日夕刊

宝木範義:「ボナール展」『公明新聞』1997年6月10日

田中三蔵:「ボナール展／辰野登恵子新作絵画展視神経に訴える新たな冒険」『朝日新聞』1997年6月12日夕刊

総入場者数:54,094人(1日平均入場者数:1,202人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
Bunkamuraザ・ミュージアム	1997年5月24日～7月21日	66,594人	1,129人

主要関連記事

【定期刊行物】

栗田秀法:「く遅れてきた印象派」とく隠れた革命家」……ボナールの相反するふたつのイメージ」『AAC』1997年冬号

新藤 信:「日常を画題にした現代的感覚没後50年ボナール展」『週刊朝日』1997年5月9,16日合併号

長谷川敬子:「美術展でランダム・アクセスできる日没後50年ボナール展」『美術手帖』1997年6月号

永倉万治:「ピエール・ボナール」『ラ・セヌ』1997年6月号

原田 環:「見ることの飽くなき冒険者を発見する没後50年ボナール展」『毎日グラフ』1997年6月11日号

La Chronique des Arts , Gazettes des Beaux-Arts , no.1542-1543, 1997

【新聞】

辻佐保子:「ボナール展から(1) 小さな橋のある風景」『中日新聞』1997年3月26日夕刊

鶴田真由:「ボナール展から(2) 二匹の犬」『中日新聞』1997年3月27日夕刊

三岸節子:「ボナール展から(3) 白い室内」『中日新聞』1997年3月28日夕刊

加賀美勲:「ボナール展から(4) 静物・果物鉢」『中日新聞』1997年3月29日夕刊

石丸幹二:「ボナール展から(5) 「フランス=シャンパン」ポスター」『中日新聞』1997年3月31日夕刊

長谷川三郎:「ボナール展から(6) 緑のブラウス」『中日新聞』1997年4月2日夕刊

理智と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展 Noboru Kitawaki : A Retrospective

会 期 1997年5月30日(金)～7月13日(日) 39日間

主 催 愛知県美術館／東京国立近代美術館／京都国立近代美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知

後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海

観覧料 一般800円、高校・大学生600円、小・中学生400円
(前売・団体は各200円引)

担 当 牧野研一郎／村上博哉

内 容：出品点数：油彩85点、水彩・素描50点、版画11点、資料作品6点 計152点

シュルレアリスムを独自の方法で深化した北脇昇（1901～1951）は、日本近代美術史のなかでも極めて独創的な足跡を残した画家として知られるが、近年はイメージを通して観念や思想を造形化する現代美術の先駆者としても評価が高い。本展は没後初めての本格的回顧展で、遺族から東京国立近代美術館に寄贈された多くの作品の修復が完了したことを機に、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、愛知県美術館の三館の共同企画として開催された。

展覧会カタログ A4判変形（28.0×22.5cm） 172ページ

テキスト 松本 透 「北脇昇 — 眠られぬ夜の画家」
山野英嗣 「北脇昇、小牧源太郎の1937年」
牧野研一郎 「『浦島物語』をめぐって」

図版（作品解説：大谷省吾）

- I 初期の作品 1930～1936年
- II シュルレアリスムの冒険 1936～1939年
- III 図式の絵画 1939～1945年
- IV 戦後の作品 1945～1951年

資料図版

北脇昇年譜／文献一覧（大谷省吾編）

編集 東京国立近代美術館（松本透／大谷省吾／水谷長志／中林和雄）
京都国立近代美術館（島田康寛／山野英嗣）
愛知県美術館（牧野研一郎／村上博哉）

デザイン 嶋 裕隆

制作 求龍堂

発行 東京国立近代美術館／京都国立近代美術館／愛知県美術館



B1ポスター



B3ポスター

関連事業

記念講演会 6月14日(土) 13:30～15:00
演題 「理知と幻想の画家 北脇昇」
講師 松本透（東京国立近代美術館主任研究官）
ギャラリー・トーク
6月7日(土) 村上／6月21日(土) 牧野
友の会鑑賞会
6月12日(木) 講師：牧野

総入場者数：15,951人（1日平均入場者数：409人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
東京国立近代美術館	1997年1月25日～3月2日	8,392人	262人
京都国立近代美術館	1997年3月11日～4月20日	2,788人	134人

主要関連記事

【雑誌】

鶴岡善久：「北脇昇展 日本のシュルレアリスムの命運の軌跡／危機意識の行方をたどって」『月刊美術』
1997年2月号

大谷省吾：「北脇昇展 理知と幻想のシュルレアリスト」『新美術新聞』2月1日号

【新聞】

宝玉正彦：「北脇昇展 時代の制約超えた独創性」『日本経済新聞』1月29日朝刊

田中三蔵：「北脇昇展 再考に値するシュール日本化の軌跡」『朝日新聞』2月6日夕刊

三田晴夫：「北脇昇展 4部構成で全体像を明らかに」『毎日新聞』2月6日夕刊

山梨俊夫：「北脇昇展 絵画の中で思索し想像する」『東京新聞』2月7日夕刊

無署名：「北脇昇展 前衛作家の本格的回顧展」『産経新聞』2月9日朝刊

宝木範義：「北脇昇展 シュルレアリスムから抽象へ/時代の激変にもまれた五〇年」
『公明新聞』2月11日朝刊

ヴェラ・リンハルトヴァ：「パリから見た北脇昇の芸術／真実に照応する多義性」
『京都新聞』4月5日夕刊

無署名：「凡語」『京都新聞』4月13日朝刊

無署名：「ぐるり展覧会 愛知県美術館で北脇昇の大回顧」『名古屋タイムズ』5月21日夕刊

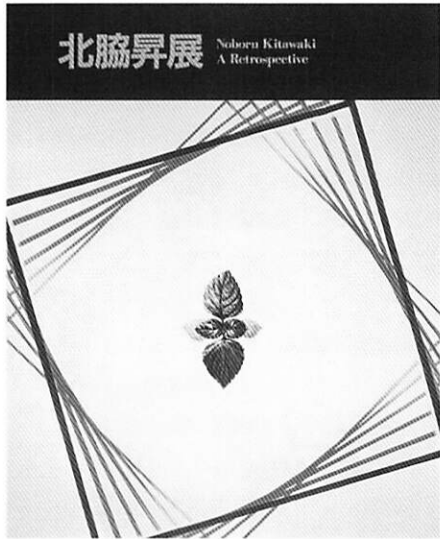
山田 諭：「北脇昇展 図式化された概念／因数分解と植物の変容」『毎日新聞』6月5日朝刊

井上隆生：「北脇昇展 復員兵は、この絵を見るあなた」『朝日新聞』6月7日朝刊

井上昇治：「北脇昇展 博物誌的な発想」『中日新聞』6月12日夕刊

石井洋次：「北脇昇展 戦後の再出発を象徴」『読売新聞』6月18日朝刊

長谷川三郎：「北脇昇展 抽象と合理性の結合」『日本経済新聞』7月17日夕刊



カタログ表紙

モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展 William Morris

会 期 1997年 7月25日(金)～1997年8月31日(日) 33日間
主 催 愛知県美術館／ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館／NHK名古屋放送局／NHK中部ブレイズ
後 援 外務省／文化庁／英国大使館／ブリティッシュ・カウンシル／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会
協 賛 成安造形大学／成安造形短期大学／王子製紙株式会社／日本写真印刷株式会社
協 力 日本航空／パイオニア株式会社／ヤマト運輸株式会社
観覧料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
(前売・団体は各200円引)
担 当 古田浩俊／高橋秀治

内 容 出品点数：234点

ウィリアム・モリス没後百年にあたる1996年、モリスのコレクションでは世界最大規模を誇るロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館で大回顧展が開催され、多くの分野にわたって势力的な活動を行ったモリスの全体像が明らかにされた。本展は上記の大回顧展の出品作を厳選したうえ、日本国内のコレクションを加えて内容を充実させ、モリスの活動の全容を紹介した。

展覧会カタログ A4判変形(29.7×22.6cm) 204ページ

テキスト リンダ・パリー：「序論」

藤田治彦：「バーン・ジョーンズが人を、ウェッブが鳥を、そしてモリスが野の花を描いた」

藪 亨：「『美しい書物』についての伝説」

金子賢治：「ウィリアム・モリスとスタジオ・クラフト」

- 図版
- I モリスの生活と初期作品
 - II モリス・マーシャル・フォークナー商会の活動
 - III モリス商会とマートン・アビー、そしてモリスの多彩な活動
 - IV ケルムスコット・ハウスでの活動とケルムスコット・プレス

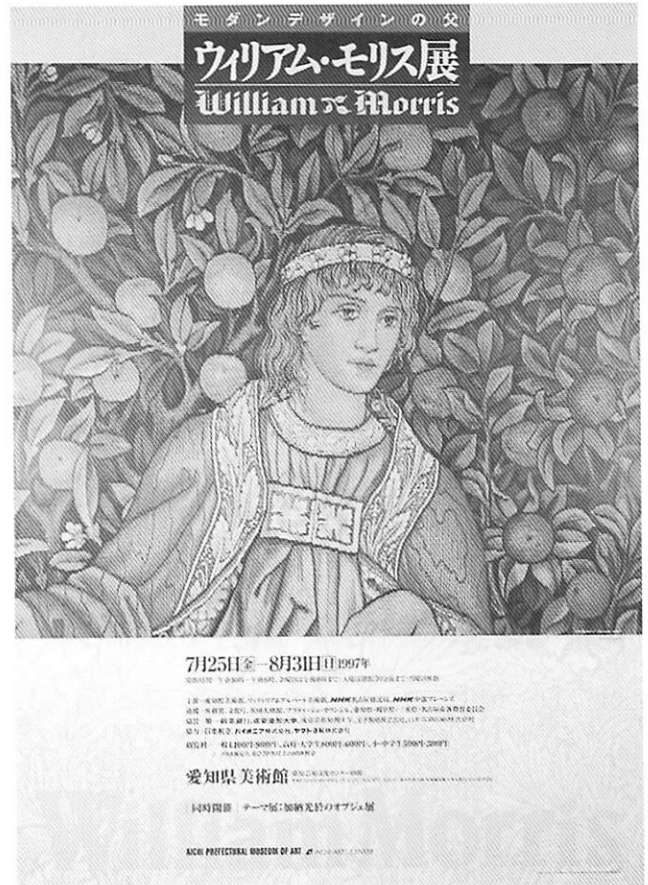
テキスト リンダ・パリー「ウィリアム・モリスの仕事」

藤田治彦「ロマンティズム・反修復運動・講演活動」

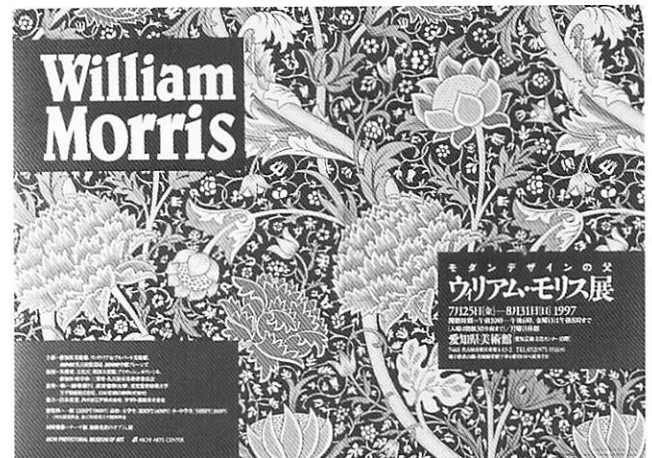
関連人名／関連用語／略年譜

編集監修 内山武夫(東京国立近代美術館)

編集 京都国立近代美術館(河本信治、松原龍一)／東京



B1ポスター



B3ポスター

国立近代美術館（金子賢治、今井陽子）／愛知県
美術館（古田、高橋）／株式会社福本事務所
発行 NHK大阪放送局／NHKきんきメディアプラン
デザイン 中垣信夫
印刷 日本写真印刷株式会社

関連事業

講演会 7月18日(金) 18:30~20:00 於:国際デザイン
センター
演題:「現代に生きるウィリアム・モリス」
講師:中山修一(神戸大学発達科学部助教授)
講演会 7月19日(土) 14:00~15:30 於:国際デザイン
センター
演題:「ウィリアム・モリスのユートピア像」
講師:安川悦子(名古屋市立大学人文社会学部教授)
講演会 7月26日(土) 13:30~15:00 於:アートスペースA
演題:「ウィリアム・モリスと美的ユートピア」
講師:荻 了(大阪芸術大学教授)
講演会 8月2日(土) 13:30~15:00 於:アートスペースA
演題:「ウィリアム・モリスと近代工芸」
講師:金子賢治(東京国立近代美術館工芸館主任研究官)
ギャラリー・トーク
8月8日(金) 高橋／8月22日(金) 古田
友の会鑑賞会
8月7日(木) 講師:高橋
夏休み子供鑑賞会 担当:藤島美菜
8月8日(金) 中学生向／8月22日(金) 小学4~6年生向

総入場者数:54,835人(1日平均入場者数:1,661人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
京都国立近代美術館	1997年3月18日~5月11日	112,685人	2,347人
東京国立近代美術館	1997年5月27日~7月31日	107,258人	2,554人

主要関連記事

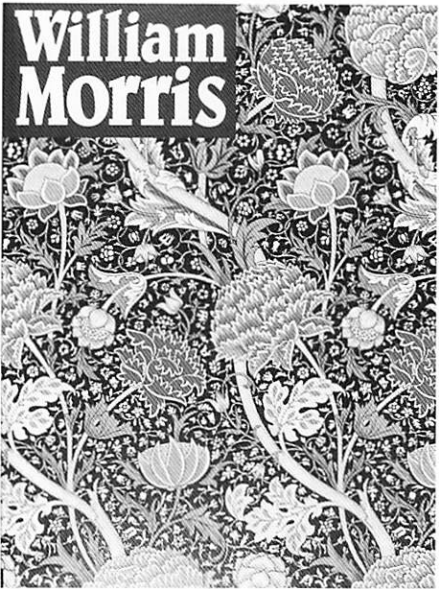
【定期刊行物】

羽生 清:「作品と商品あるいは美術館と居間」『視る』
1997年4月号
金子賢治:「ウィリアム・モリス展」『現代の眼』
1997年4-5月号
土田真紀:「モリスの中世趣味・中世主義」『現代の眼』
1997年6-7月号

藤田裕彦:「ユートピア再見」『現代の眼』1997年8-9月号
金子賢治:「世紀末のマルチ人間ウィリアム・モリス」『美術の
窓』1997年6月号
谷田博幸:「ウィリアム・モリスの装飾人生」『芸術新潮』
1997年6月号

【新聞】

金子賢治:「モダンデザインの父ウィリアム・モリス」『日本経
済新聞』1997年4月6日
鶴岡真弓:「モリス・デザインの先見性とは」『読売新聞』
5月29日
Robert Reed: "A life of Illumination " *The Daily Yomiuri* , June
3, 1997
O:「視野を広げ、磨こうファッション感覚」『名古屋タイムス』
8月2日夕刊
井上隆生:「刺しゅう・織物・本に手仕事の美」『朝日新聞』
8月16日
茂登山清文:「ウィリアム・モリスという謎」『中日新聞』
8月25日夕刊
長谷川三郎:「中世の装飾芸術復活」『日本経済新聞』
8月28日夕刊



カタログ表紙

20世紀美術の冒険 アムステルダム市立美術館コレクション展

Art in the 20th Century From Cezanne and Van Gogh to the Present

会 期 1997年9月12日(金)ー11月3日(月・祝) 46日間
主 催 愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送
後 援 外務省／文化庁／オランダ大使館／愛知県・岐阜
県・三重県・名古屋市長官教育委員会／JR東海
協 力 KLMオランダ航空
企画協力 ナンジョウアンドアソシエイツ
観 覧 料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
(前売・団体は各200円引)
担 当 寺門臨太郎／村田真宏

内 容 出品点数：65点(絵画57点、立体8点)

20世紀美術の公立コレクションとして世界有数の規模を誇るアムステルダム市立美術館の協力により、ポスト印象派から今日までの西洋美術の流れを紹介した。ファン・ゴッホに始まる「表現主義的傾向」とセザンヌに始まる「構成的傾向」のふたつの流れを軸に、65点の作品を六つのセクションにわけて構成した。とくに、同館コレクションの核となるモンドリアンやマレーヴィチ、シャガールらの代表作の出品により、一般にも馴染みやすく、また教育的な内容となった。また、仮に当館のコレクションの一部と、アムステルダムからの作品とを併せて、ひとつの展覧会として構成できたなら、相当見ごたえのある内容となったことも想定された。

展覧会カタログ A4判変形(28.0×22.5cm) 228ページ

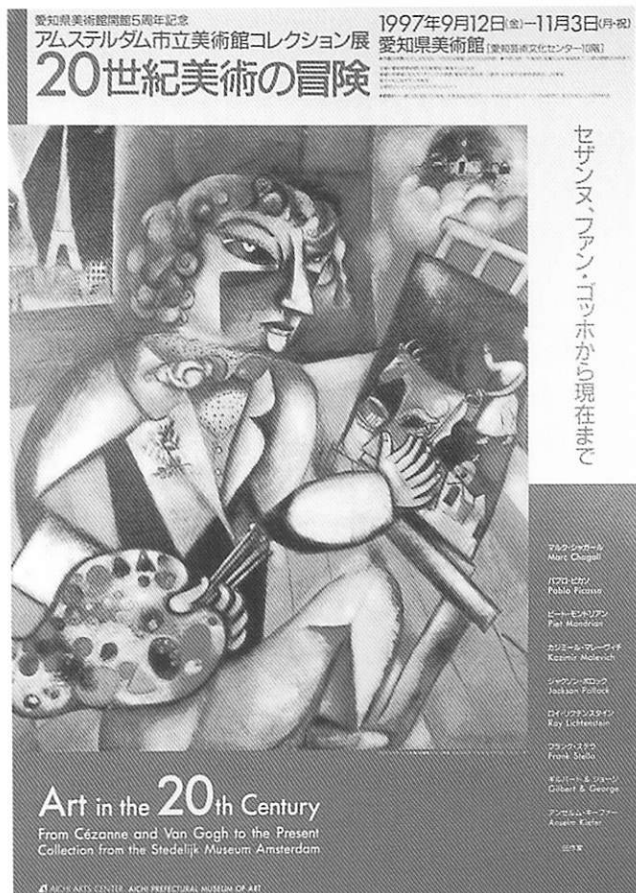
テキスト ルーディ・フックス「フェイス・トゥ・フェイス——対立と対比」

谷 新「20世紀——変革のパノラマ」

フルト・イマンス「アムステルダム市立美術館——近代美術の100年」

- 図版
1. ファン・ゴッホからドイツ表現主義まで(章解説：石川 潤)
 2. セザンヌからマレーヴィチ、モンドリアンまで(章解説：松田 弘)
 3. オランダ・リアリズムとその周辺(章解説：寺門臨太郎)
 4. 戦後のヨーロッパとアメリカ(章解説：佐々木 奈美子)
 5. ポップ・アートからコンセプチュアル・アートまで(章解説：南條史生)
 6. 新表現主義と1980年代以降(章解説：北村淳子)

作家解説



B1ポスター



B3ポスター

編集 愛知県美術館（寺門臨太郎）
宇都宮美術館（谷 新／北村淳子／石川 潤）
新潟県立近代美術館（佐々木奈美子／藤田裕彦）
広島県美術館（松田 弘／周々木朝香）
アムステルダム市立美術館（マールテン・ベルト
ウ／ルーディ・フックス／フルト・イマンス／パ
ウル・ケンペルス）
ナンジョウアンドアソシエイツ（南條史生／児島
やよい／石神 森）
デザイン 近藤一弥
制作 コギト
発行 20世紀美術の冒険展実行委員会／アムステルダム
市立美術館／ナンジョウアンドアソシエイツ

関連事業

講演会 9月27日(土)13：30～15：00
演題：「セザンヌからモンドリアンまで―抽象絵画の成立
と展開」
講師：五十殿利治（筑波大学助教授）
ギャラリー・トーク
9月13日(土) 寺門／9月20日(土) 村田／10月11日(土)
寺門／10月25日(土) 村田
友の会鑑賞会
9月18日(木) 講師：寺門臨太郎

総入場者数 31,750人（1日平均入場者数：690人）

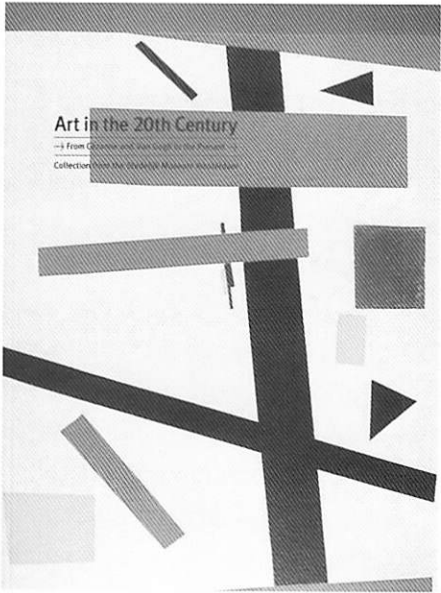
展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
宇 都 宮 美 術 館	1997年3月23日～5月18日	126,079人	2,424人
新潟県立近代美術館	1997年5月28日～7月12日	14,111人	353人
広島県立美術館	1997年7月22日～8月17日	18,841人	758人
静岡県立美術館	1997年11月11日～12月21日	22,067人	613人

主要関連記事

【新聞記事】

島田鮎子：「セザンヌ、サント＝ヴィクトワール山」（20世紀美術の冒険.「アムステルダム市立美術館展」から.1）
『中日新聞』1997年9月11日夕刊
黒井千次：「シャガール、七本指の自画像」（同上.2）『中日新聞』9月12日夕刊
寺門臨太郎：「マレーヴィチ、モスクワのイギリス人」
（同上.3）『中日新聞』9月13日夕刊

南條史生：「ポロック、北斗七星の反映」（同上.4）『中日新聞』9月16日夕刊
日比野克彦：「リクテンスタイン、僕が火ぶたを切ったとき...」（同上.5）『中日新聞』9月1日夕刊
太田垣実：「シャガール、七本指の自画像」（美折りおり）『京都新聞』10月18日朝刊



カタログ表紙

イタリア美術1945-1995 見えるものと見えないもの
ARTE ITALIANA 1945 - 1995 : Il visibile e l'invisibile

会 期 1997年11月14日(金)～1998年1月15日(木) 48日間
主 催 愛知県美術館／読売新聞社／中京テレビ放送／美術
館連絡協議会
後 援 外務省／イタリア大使館／イタリア文化会館／愛知
県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海
協 賛 ASPESI／花王株式会社／ILL YFRANCIS FRANCIS
企画協力 ナンジョウアンドアソシエイツ
観 覧 料 一般1,100円、高校・大学生800円、小・中学生500円
(前売・団体は各200円引)
担 当 拝戸雅彦／牧野研一郎

内 容 出品点数：85点

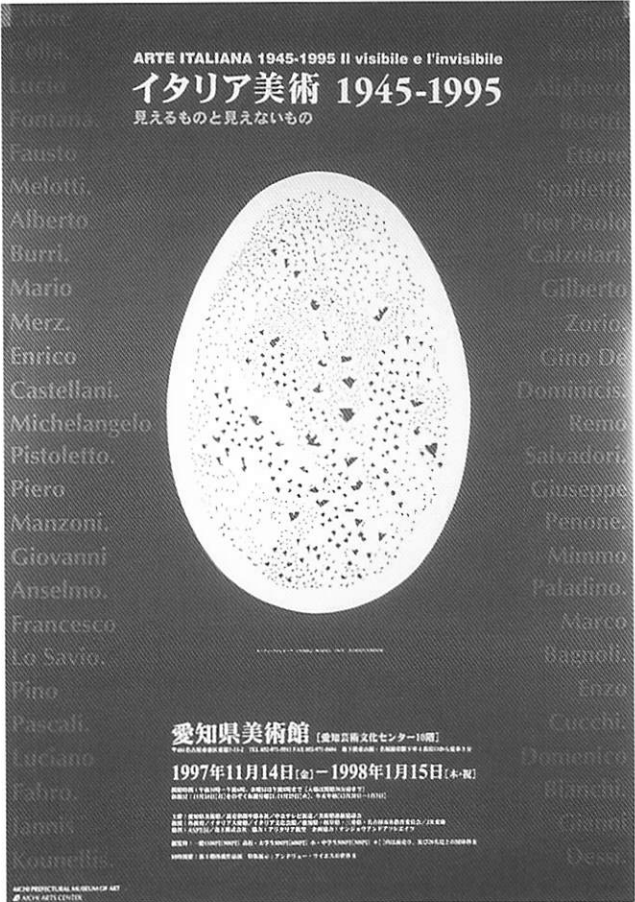
1945年から現代までのイタリア美術の流れを、アルテ・ポーヴェラの運動の作家を中心に紹介した。

イタリアの戦後美術の中では、60年代から70年代にかけて活発だったアルテ・ポーヴェラの運動が日本でよく知られている。この展覧会では、アルテ・ポーヴェラの運動を歴史的に理解するために、40年代から50年代の先駆的な動きと、80年代から90年代のその後の展開もあわせて、立体作品の制作を中心とする26人の作家、作品85点で構成した。

まず、アルテ・ポーヴェラの運動に影響を与えた作家として、ルーチョ・フォンターナとアルベルト・ブッリを取り上げた。フォンターナの「空間」とブッリの「物質」の二つの軸がアルテ・ポーヴェラの運動に流れ込んだ、と考えたのである。80年代と90年代の作家の選定に関しては、コンセプチュアルな解釈を加えながら、「物質」と取り組む作家を取り上げた。

アルテ・ポーヴェラの運動は、日本の「もの派」の運動と対比され、国内でも議論されることは多かったが、実作品を見る機会はほとんどなかった。アルテ・ポーヴェラの実作品を日本でまとめて紹介したのは、この展覧会が初めてである。

アルテ・ポーヴェラの運動は、「物質」の意味をコンセプチュアルに見せ、同時に周囲の空間に働きかけようとするために、表面が壊れやすいものや、サイズの大きなものが多い。そのために、通常の空輸では経費もかかるほか、展示することにも大きな困難が伴う。これが可能となったのは、トリノのコレクターで画廊主でもあったクリスチャン・シュタイン夫人のコレクションが出品作品の核となったからである。彼女は、60年代からアルテ・ポーヴェラの作家たちと直接交流をもち、早くから作品をコレクションして作家の活動をサポートしてきた人物である。彼女の好意で、多くの作品を船で輸送するとともに、展示に慣れたスタッフの手を借りることが可能になった。



B1ポスター



B1ポスター

この展覧会には様々な意見が寄せられた。中でも興味深かったのは、それまでの一般的な現代美術のイメージとは異なる、ルネサンス美術にも通じる「わかりやすさ」と、イタリアデザインに共通する「洗練されたもの」を、多くの人が作品から感じ取ったことだろう。

加えて、国際交流基金の招聘でブルーノ・コラが来日し、出品作家のメルツとパオリニを交えたシンポジウムが開催され、活発なディスカッションが交わされた。また、愛知以降の各会場にも出品作家が来日した。ファブロ、サルヴァドリー、ピアンキ(東京)、ゾリオ(米子)アンセルモ、ピストレット(広島)。雑誌や新聞のインタビューを通して、作家の声が日本の読者に伝えられた。

展覧会の内容が現代美術で、一人一人の作家の知名度も低いということもあり、入場者数は十分ではなかったが、現代美術の中に「わかりやすい」ものがあるということをメッセージとして伝えた点に、一定の成果を見ることができるだろう。

出品作家 (アルファベット順)

ジョヴァンニ・アンセルモ、マルコ・パニョーリ、ドメニコ・ピアンキ、アリギエロ・ボエッティ、アルベルト・ブッリ、ピエルパオロ・カルツォラーリ、エンリコ・カステッラーニ、エットーレ・コッラ、エンツォ・クッキ、ジーノ・デ・ドミニチス、ジャンニ・デッシ、ルチアーノ・ファブロ、ルーチョ・フォンターナ、ヤニス・クネリス、フランチェスコ・ロ・サヴィオ、ピエロ・マンゾーニ、ファウスト・メロッティ、マリオ・メルツ、ミンモ・パラディーノ、ジュリオ・パオリニ、ピーノ・パスカーリ、ジュゼッペ・ペノーネ、ミケランジェロ・ピストレット、レーモ・サルヴァドリー、エットーレ・スパレッティ、ジルベルト・ゾリオ

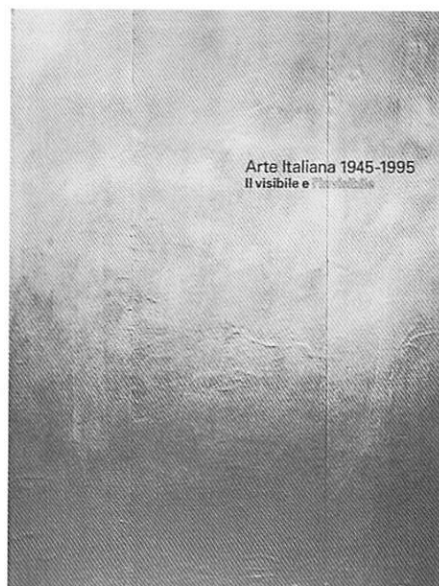
展覧会カタログ A4判変形 (30.0×22.7cm) 270ページ

テキスト ブルーノ・コラ「トリノ・ローマ・ミラノ——イタリア現代美術における三つの重要都市——」
拝戸雅彦「形而上学と『素材性』の間」
南條史生「60年代の時代精神——戦後イタリア美術と日本——」

図版 第Ⅰ章 40年代—50年代 (章解説：小田るな)
第Ⅱ章 60年代—70年代 (章解説：南條史生)
第Ⅲ章 80年代—90年代 (章解説：拝戸雅彦)

作家解説 拝戸雅彦編

国内展覧会歴 平野千枝子編



カタログ表紙

戦後イタリア美術日本語主要文献目録 藤井亜紀編
戦後美術に関する文献アンソロジーの抄訳
Cronologia (Chronology) edited by Alessandro Del Puppo
Bibliografia (Bibliography) edited by Alessanndro Del Puppo
ARTE ITALIANA DOPO IL 1945. ANTOLOGIA DI TESTI
edited by Alessanndro Del Puppo
編集 愛知県美術館 (拝戸雅彦／牧野研一郎)
東京都現代美術館 (平野千枝子／藤井亜紀)
広島市現代美術館 (小田るな)
ナンジョウアンドアソシエイツ (児島やよい／
小沢有子)
表紙デザイン 作石年達
制作 印象社
発行 愛知県美術館／東京都現代美術館／米子市美
術館／広島市現代美術館／ナンジョウアンド
アソシエイツ

関連事業

シンポジウム「作家が語る」 11月15日(土) 14：00～17：00
パネリスト：ブルーノ・コラ(ベッチ美術館館長)／マリ
オ・メルツ (出品作家)／ジューリオ・パオ
リーニ (出品作家)
議事進行：拝戸雅彦
講演会 11月29日(土) 13：30～15：00
演題：「イタリア戦後美術の魅力」
講師：井関正昭 (東京都庭園美術館長)
ギャラリー・トーク
11月22日(土)／12月6日(土) いずれも拝戸担当
友の会鑑賞会
11月20日(木) 講師：拝戸

総入場者数 16,739人 (1日平均入場者数：349人)

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
東京都現代美術館	1998年2月1日～3月22日	20,730人	482人
米子市美術館	1998年4月23日～5月26日	4,317人	127人
広島市現代美術館	1998年6月15日～7月22日	7,242人	172人

主要関連記事

【定期刊行物】
本間純一：『愛知の建築』「取材記 (ニュース美術館案内)」
1997年12月号

加藤義夫：「フォンターナ、ブッリ、マンゾーニ：イタリア現代美術の巨匠が揃い踏み」『日経アート』
1998年2月号

山田 諭(文)、安斎重男(撮影)：「見えないもの」の系譜『美術手帖』1998年2月号

和田忠彦(文)、安斎重男(写真)：「インタビュー（ジュリオ・パオリーニ、マリオ・メルツ）」『美術手帖』1998年5月号
峯村敏明(ききて) 上村清雄(通訳)：「ルチアーノ・ファブロー
清貧の美術、豊穣の美術」『美術手帖』1998年6月号

拝戸雅彦(ききて)：「インタビュー(ミケランジェロ・ピストレ
ット)」『美術手帖』1999年2月号

【新聞】

馬場駿吉：「伊の戦後美術を俯瞰（特集）」『読売新聞』中部版
1997年11月14日朝刊

井関正昭：「多彩な姿を総括して紹介」『新美術新聞』11月21日

山田 諭：「洗練された美しさ」『毎日新聞』11月28日朝刊

拝戸雅彦：「叙情的、自由な表現（ファウスト・メロッチェ、
アフリカ）」『読売新聞』中部版 11月28日夕刊

拝戸雅彦：「芸術と現実の循環（ジュリオ・パオリーニ、ネ
ッソス）」『読売新聞』中部版 11月29日夕刊

拝戸雅彦編集：「新世界示唆する簡素な美術（シンポジウム報
告）」『読売新聞』中部版 12月11日朝刊

大西若人：「妄想力で日常の素材が飛躍」『朝日新聞』
12月11日夕刊

和田忠彦：「原風景の凝視必要ー「イタリア美術」展に寄せて」
『読売新聞』中部版 12月17日朝刊

井上昇治：「しゃれたセンス漂う」『中日新聞』12月25日夕刊

長谷川三郎：「ルネサンスを現代に」『日本経済新聞』
12月25日夕刊

渋谷和彦：「伝統を消化した斬新な冒険」『産経新聞』
1998年1月11日朝刊

無署名：「短信」『公明新聞』1月13日朝刊

馬場駿吉：「光を放つ影ー戦後50年、再生の足取り」『読売新聞』
1月31日夕刊

菅原教夫：「インタビュー、ルチアーノ・ファブローが語る『ア
ルテ・ボーヴェラ』」『読売新聞』2月16日夕刊

Julia Cassim: "Italy's Original Drama and Verve", *The Japan
Times*, January 11, 1998, p. 15

Robert Reed: "Postwar Italy's Visible influence", *The Daily
Yomiuri*, February 10, 1998, p.12

三田晴夫：「戦後史の同一と差異浮き彫り」『毎日新聞』
2月17日夕刊

清水敏男：「純粹自律的な美術史の危険性（新美術時評）」『新
美術新聞』4月1日

近代美術の100年 愛知県美術館コレクションの精華

A CENTURY OF MODERN ART Selected Works from the Collection

会 期 1998年1月30日(金)ー3月8日(日) 33日間

主 催 愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送／東海テレビ放送

後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海／名古屋市交通局

協 賛 トヨタ自動車株式会社

協 力 株式会社東海銀行

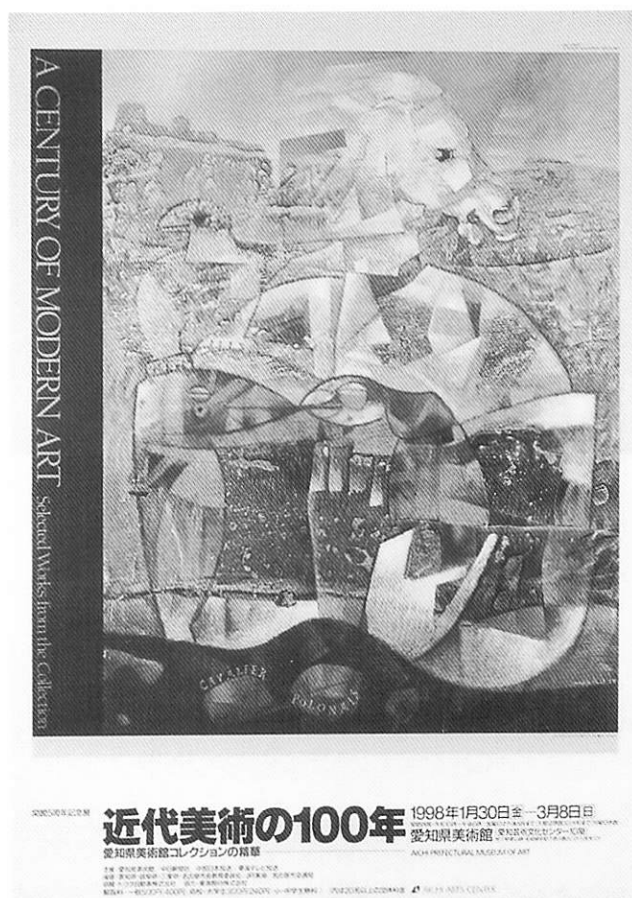
観覧料 一般500円(400円)、高校・大学生300円(240円)、小・中学生無料

担 当 木本文平／村上博哉／高橋秀治／鯨井秀伸

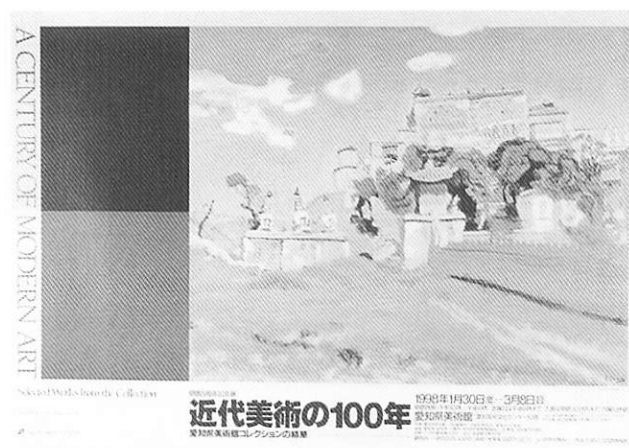
内 容 出品点数：310点(展示替を含む)

開館5周年を記念して、全館を利用した所蔵作品展を行い、旧文化会館美術館時代から40年余におよぶ収集活動の成果を披露した。平成9年度の新収蔵作品を含め、コレクションから選ばれた300点余の作品を「近代の日本画」「20世紀前半の西洋美術」「日本近代の洋画」「創作版画」「戦後の具象絵画」「戦後の美術」「現代の美術」「戦後の日本画」という分類によって展示し、日本と西洋の近・現代美術の展開を示すことを狙いとした。あわせて、来館者に当館コレクションへの理解を深めてもらうため、テキストに重点をおいたコレクション・ガイドを発行するとともに、会期中の毎土曜日にテーマを絞ったギャラリー・トークを実施した。

通常の所蔵作品展のほぼ2倍に相当するスペースを利用した展示と、学芸職員全員が分担執筆したコレクション・ガイドの出版により、当館コレクションの現状を明らかにすることは、来館者ばかりでなく学芸職員にとっても予想以上に新鮮な経験となった。日本の近代洋画が比較的充実した旧文化会館美術館のコレクションを出発点として昭和63年から新たな方針のもとに行われた当館の収集活動は、特定のジャンルや時代に片寄ることなく、20世紀初頭から(日本の美術に関しては明治初年から)今日までの美術の流れを可能なかぎり系統的に紹介するという目標を立ててきたが、今回の展覧会はその活動がある程度の成果を取めたことを示すと同時に、数々の欠落や弱点をも明らかにしたのである。それらの欠落や弱点を意識しながら継続的な収集活動を行う必要があることが、あらためて認識された。



B1ポスター



B3ポスター

関連事業

出版

『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション』B5判変形
(26.0×17.5cm) 216ページ

概説 浅野 徹「愛知県美術館のコレクション」

概説英訳

本文 海外の美術

I 20世紀初頭の美術／II 両大戦間の美術
／III 第二次世界大戦後の美術

日本の美術

I 明治の美術／II 大正・昭和前期の美術
／III 戦後の美術

図版リスト

用語解説

近代美術略年表

主要人名索引

監修 浅野 徹、長谷川三郎

編集 村上博哉

資料作成 鯨井秀伸

執筆 浅野 徹、本本文平、鯨井秀伸、栗田秀法、高橋秀治、寺門臨太郎、長屋菜津子、坪戸雅彦、長谷川三郎、藤島美菜、古田浩俊、牧野研一郎、深山孝彰、村上博哉、村田真宏
(各執筆項目は60頁参照)

翻訳 勝矢桂子

制作 印象社

発行 愛知県美術館



表紙

講演会 1月31日(土) 13:30-15:00

演題:「西洋近代美術の流れー愛知県美術館のコレクションを中心に」

講師:高階秀爾(東京大学名誉教授・国立西洋美術館長)

講演会 2月11日(水) 13:30-15:00

演題:「愛知県美術館のコレクションにみる日本近代美術」

講師:陰里鐵郎(横浜美術館長)

ギャラリー・トーク

1月31日(土)「20世紀前半の西洋美術」 (高橋秀治)

2月7日(土)「戦後の美術」 (牧野研一郎)

2月14日(土)「ロダンと近代彫刻」 (長谷川三郎)

2月21日(土)「岸田劉生と日本近代洋画」(浅野 徹)

2月28日(土)「近代の日本画」(村田真宏)

3月7日(土)「戦後の日本画」(木本文平)

友の会鑑賞会

2月5日(木) 講師：浅野徹

総入場者数 17,985人 (1日平均入場者数：545人)

(巡回なし)

主要関連記事

【新聞】

井上昇治：「光彩放つ20世紀美術の奔流」『中日新聞』

1998年1月28日夕刊

長谷川三郎：「収集活動の成果 公開」『日本経済新聞』

2月12日夕刊

村田真宏：「繊細な感受性、存分に」『毎日新聞』2月13日

井上隆生：「所蔵の307作品で歴史を再現」『朝日新聞』

2月14日

無署名：「展示解説会増やし、生きた美術教育の場に」『名古屋

タイムス』2月14日夕刊

富山秀男：「20世紀美術のアンソロジー」『中日新聞』

2月25日夕刊

1997年度観覧者数一覧

所蔵作品展 ※ () は年度内(1997年 4 月 1 日－1998年 3 月31日)の数字

展示期	会 期	日 数	入場者数	一日平均
1997年度第Ⅰ期	1997年 3 月28日－ 7 月13日	90 (87)	45,030 (43,080)	500 (495)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	(1,091)	(41,989) (12)	(483)
1997年度第Ⅱ期	7 月25日－11月 3 日	85	46,075	542
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		44,778 1,297	527 15
1997年度第Ⅲ期	11月14日－1998年 1 月15日	48	13,187	275
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	12,544 643	261 14	
1998年度第Ⅰ期	1998年 3 月20日－ 6 月 7 日	(10)	(6,262)	(626)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数	(6,160) (102)	(616) (10)	
合 計		(230)	(108,604)	(472)
	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		(105,471) (3,133)	(459) (14)

企画展

展覧会名	期間・日数	入場者数	一日平均
没後50年 ボナール展	1997年 3 月28日－ 5 月18日 (45日間)	54,094	1,202
理知と幻想のシュルレアリスト 北脇 昇展	5 月30日－ 7 月13日 (39日間)	15,951	409
モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	7 月25日－ 8 月31日 (33日間)	54,835	1,662
20世紀美術の冒険 アムステルダム市立美術館 コレクション展	9 月12日－11月 3 日 (46日間)	31,750	690
イタリア美術 1945－1995 －見えるものと見えないもの－	11月14日－1998年 1 月15日 (48日間)	16,739	349
近代美術の100年 愛知県美術館コレクションの精華	1 月30日－ 3 月 8 日 (33日間)	17,985	545
合 計	(244日間)	191,354	784

1. 出版・発行

所蔵作品に関する書物として開館当初に『所蔵作品選』(1992)と『所蔵作品目録』(1993)を発行したが、1997年度は開館5周年を機に10階全展示室を所蔵作品のみで構成した展覧会に併せ、所蔵作品で20世紀美術史の展開をたどる概説書『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション』を発行した。また、子供の鑑賞教育用として、小・中学生対象の『ワークシート』を順次発行してきたが、1997年度は特に低学年児童を対象に、形式・内容ともに簡易なもの1種を制作した。さらに、企画展入場者のために主要作品や章の解説、作家略歴などを記載した「鑑賞の手引き」を1997年度は毎回作成配布した。

1997年度発行物一覧

企画展カタログ 『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション』 小企画展「葡萄弾 加納光於 オブジェ」カタログ 企画展鑑賞の手引き 所蔵作品目録(展示替ごと) ワークシート『じんせいはたたかいなり クリムト作』 研究紀要 第4号 年報 1996年度版 教育活動のご案内 1998年度 展覧会スケジュール 1998年度 展覧会スケジュール(英語版)	5 企画展ごと各種 B5判変形、216ページ A4判変形、64ページ A4判、2～8ページ A4・B5判4ページ 三つ折り、14×14cm B5判、68ページ A4判、86ページ A4判変形三つ折り A4判変形三つ折り A4判変形三つ折り	有償 有償 有償 無償 無償 無償 非売 非売 無償 無償 無償
---	---	--

2. 講演会・講座・シンポジウム等

各企画展の開催にあわせ、その分野の研究者や展覧会担当学芸員、時には作家本人などによる講演会や対談・シンポジウムなどを催し、観覧者により深く展覧会の内容を理解する機会を提供している。また、シリーズとしてまとまりのある連続講座や定期講演会も開催している。

1997年度企画展関連の講演会／シンポジウム

開催日	演 題	講師・パネリスト	聴講者数
97/4/5(土)	ボナールとその時代	中山 公男(群馬県立近代美術館長)	106
4/6(日)	ボナールの印象派摂取と新たな展開の端緒	栗田 秀法(愛知県美術館学芸員)	63
4/12(土)	未来の画家ボナールー遠くにあるものの近さ	松浦 寿夫(東京外国語大学助教授)	83
6/14(土)	北脇昇ー理知と幻想のシュルレアリスト	松本 透(東京国立近代美術館主任研究官)	70
7/26(土)	ウィリアム・モリスと美的ユートピア	蔽 亨(大阪芸術大学芸術学部教授)	125
8/2(土)	ウィリアム・モリスと近代工芸	金子 賢治(東京国立近代美術館工芸館主任研究官)	112
9/27(土)	セザンヌからモンドリアンまで ー抽象絵画の成立と展開	五十殿利治(筑波大学助教授)	130
11/15(土)	イタリア美術展シンポジウム「作家が語る」	ジューリオ・パオリニ(作家) マリオ・メルツ(作家) ブルーノ・コラ(プラト現代美術館長)	98
11/29(土)	イタリア現代美術の魅力	井関 正昭(東京都庭園美術館長)	60
98/1/31(土)	西洋近代美術の流れ ー愛知県美術館のコレクションを中心に	高階 秀爾(国立西洋美術館長)	254
2/11(土)	愛知県美術館のコレクションに見る日本近代美術	陰里 鐵郎(横浜美術館長)	125

1997年度連続講座「日本近代美術のリーダーたち」

98/2/7(土)	日本画家 竹内栖鳳ー栖鳳とヨーロッパ美術	田中日佐夫(成城大学教授)	110
2/8(日)	彫刻家 荻原守衛ーロダンの導入者	千田 敬一(碌山美術館学芸員)	70
2/14(土)	版画家 恩地孝四郎 ー自由な感覚の開放を求めた前衛版画詩人	藤井 久栄(元 筑波大学教授)	65
2/15(日)	洋画家 岸田劉生ー一大正期の写実	浅野 徹(愛知県美術館長)	148

3. ギャラリートーク

1996年度から企画展担当学芸員によるギャラリートーク（展示室内での解説）を計画的に開催している。1997年度は全企画展で開催する方針とした。

展覧会	開催日	参加者数
ボナール展	4月17日	25人
	4月24日	30人
北脇昇展	6月7日	10人
	6月21日	6人
ウィリアム・モリス展	8月8日	35人
	8月22日	40人
20世紀美術の冒険	9月13日	40人
	9月20日	30人
	10月11日	40人
	10月25日	35人
イタリア美術 1945－1995	11月22日	15人
	12月6日	10人
近代美術の100年	1月31日	20人
	2月7日	15人
	2月14日	20人
	2月21日	25人
	2月28日	22人
	3月7日	22人

* ギャラリートークの聴講者数は概数（聴講券発行は毎回15枚）

4. 各種鑑賞プログラム

(1) 学校教師を対象とした企画展説明会

学校教育と美術館教育との連携をはかり、学校の授業や見学会などで役立ててもらうことを意図して、小・中・高校の先生（美術担当に限らない）を対象とした企画展の説明会を行っている。

展覧会	開催日	参加者数
ボナール展	4月26日	19人
ウィリアム・モリス展	7月25日	6人
20世紀美術の冒険	9月27日	8人
イタリア美術 1945－1995	11月29日	16人
近代美術の100年	1月31日	20人

(2) 子供を対象とした鑑賞教育

所蔵作品展観覧の小・中・高校生にワークシートを配布するとともに、小・中学生を対象とした子供鑑賞会を計画的に行っている。また、1997年度は試験的に全企画展で子供対象の鑑賞会を行った。

1997年度の子供鑑賞会

所蔵作品展に関するもの：

開催日	対 象	参加人数	備 考
8 月 7 日	小 1 ～ 小 3	8 人	ワークシート使用
8 月 9 日	中 学	7 人	
8 月 21 日	中 学	3 人	
8 月 23 日	小 4 ～ 小 6	4 人	
9 月 28 日	小 1 ～ 小 3	4 人	
	小 4 ～ 小 6	2 人	
11 月 16 日	小 1 ～ 小 3	2 人	
3 月 29 日	小 1 ～ 小 3	2 人	



低学年用ワークシート

企画展に関するもの：

展 覧 会	開催日	対 象	参加者数
ボナール展	4 月 26 日	小4～中学	23 人
北脇昇展	6 月 14 日	中学	7 人
ウィリアム・モリス展	8 月 8 日	中学	4 人
	8 月 22 日	小4～小6	3 人
20世紀美術の冒険	9 月 27 日	中学	9 人
イタリア美術 1945－1995	12 月 13 日	中学	1 人
近代美術の100年	2 月 22 日	中学	1 人

(3) 「視覚に障害のある方へのプログラム」の開催

所蔵作品による「近代美術の100年」展の会期中、「名古屋 YMCA 美術ガイドボランティアグループ」の協力により、「視覚に障害のある方へのプログラム」を開催した。内容は学芸員によるガイダンス・作品説明と、ガイドボランティアの案内による鑑賞会で、いくつかの重要な作品には大きな文字と点字による解説書や、図柄に触れてなぞることのできる立体コピーを用いた。

開催日	参加者	午前、午後の内訳
2 月 19 日	14 人	午前：10 人 午後：4 人
2 月 26 日	17 人	午前：9 人 午後：8 人

5. ビデオテークでの映像機器を利用した鑑賞教育の実施

10階ビデオテークでは、所蔵作品や展覧会内容に即した番組を提供して、また主要な所蔵作品の画像と文字情報が自由に引き出せる検索型のシステムを運用している。1997年度は2本のビデオソフトを制作した。

「生命の憧憬 戸張孤雁」 NTSC 約15分

担当：深山孝彰 制作：名古屋テレビ映像

「北川民次」 NTSC 約13分

担当：村田真宏 制作：名古屋テレビ映像

6. 移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会等の事業を行う移動美術館を年1回開催している。年1回の南知多町、第2回の足助町、第3回の渥美町に続き、1997年度は設楽町において、愛知県文化振興事業団、設楽町、設楽町教育委員会との共催で開催した。

展覧会名：愛知県美術館所蔵 20世紀の美術

会 期：1997年10月19日(日)～10月26日(日)

会 場：奥三河総合センター体育館(設楽町大字田口字向木屋2番の10)

観 覧 料：無料

主 催：愛知県美術館、(財)愛知県文化振興事業団、設楽町、設楽町教育委員会

※業務分担：

- ・美術館……展覧会の内容にかかわること（展覧会の構成、作品の輸送展示、講演会等の教育普及事業等）
- ・事業団……基本経費の執行にかかわること（輸送展示費、展示工事費、保険料、広報物の作成等）
- ・設楽町……会場の管理運営ならびに広報にかかわること（会場管理、防犯対策、町内外への広報と動員等）

担 当：(美術課)牧野研一郎、高橋秀治

／(企画普及課)藤島美菜、栗田秀法



A4ちらし

展示内容：

明治から現代にいたる日本の洋画を中心に、これに海外の作品や彫刻を加えた41点(絵画36点、彫刻5点)を、人物・風景・静物などに分けて展示。

〈人物画〉

山本芳翠	西洋裸婦	1882頃
E.J.ポインター	世界の若かりし頃	1891
宮脇 晴	自画像	1920
A.ボーシャン	フィアンセを訪ねて	1928
里見勝蔵	裸婦	1930
伊藤 廉	ギター奏手	1932
佐分 真	ステッキの老人	1932
鬼頭鍋三郎	二人のバレリーナ	1952
桂 ゆき	人と魚	1954
宮本三郎	家族	1956
島田章三	石庭女人図	1976
山本文彦	野	1984

〈静物画〉

黒田清輝	花と猫	1906
北川民次	南国の花	1940
矢橋六郎	牡丹	1946
三岸節子	魚とインカの壺	1952
中山 巍	ガラス器のある静物	1963
奥谷 博	貝と河豚	1966
上田 薫	なま玉子G	1976
笠井誠一	ウクレレと冬瓜と グロリオサのある卓上静物	1995

〈風景画〉

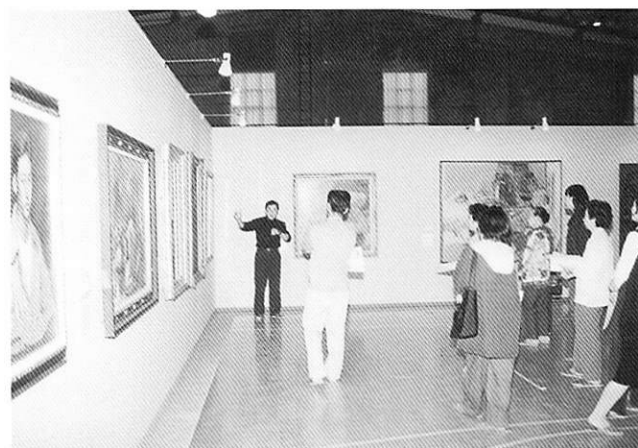
長原孝太郎	山村	1919
小林和作	薔薇咲くカプリ島	1928
小島善太郎	房州風景	1930
岡鹿之助	窓	1949
中谷 泰	石切山	1961
牛島憲之	埋もれる舟	1962
森 芳雄	アクロポリス	1963
荻須高德	サンドニ	1964
木村忠太	ヌムールの運河	1967

〈抽象画〉

村井正誠	ゴルフジュアンの船	1929
瑛九	黄色い花	1957/58
元永定正	作品	1961
アルパース	正方形顔	1962
大沢昌助	赤い幻想	1965



会場風景



展示解説

猪熊弦一郎	地図の中の日曜日	1979
難波田龍起	原初的風景B	1987
〈立体〉		
E.A.ブールデル	両手のベートーベン	1908
E.バルラッハ	母なる大地Ⅱ	1920
堀内正和	四角と丸の組合せb	1956
野水 信	六面体をくぐり抜ける円環	1980
佐藤忠良	レイ	1980

教育普及事業：

1. 記念講演会：「美術の見方、楽しみ方」（浅野館長）
10月19日（日）13：40－15：00 田口特産
物振興センター多目的室（聴講者約90人）
2. 展示解説：（一般対象）
10月25日（土）／26日（日）10：30－11：30
（学校団体）
事前の9月12日に教師対象説明会、10月21・
23・24日に小・中・高生対象解説会（団体
観覧者総数732人）
3. ビデオ上映：愛知県美術館制作「サンサシオンの10年」
はじめ3本

関連事業：（設楽町、設楽町教育委員会担当）

1. ピアノコンサート＆生涯学習講演会：
（ピアノ：近藤美子／講師：舟橋 透）
10月25日（土）14：00から 奥三河総合センター講堂
2. 映画会：10月26日（日）10：00から
奥三河総合センター講堂

総観覧者数：2,096人

7. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習について、1997年度は18名の実習生を受け入れ指導を行った。

実習実施期間

7月28日（月）－8月1日（金）5日間

実習生

村田憲重	多摩美術大学美術学部芸術学科
吉田英美	神戸学院大学人文学部
林 みちる	明星大学日本文化学科生活芸術学科
千葉真弓	名古屋芸術大学美術学部絵画科
山本桂子	名古屋芸術大学美術学部絵画科

間野有紀子	名古屋芸術大学美術学部絵画科
林 堅	名古屋芸術大学美術学部絵画科
金原浩美	名古屋芸術大学美術学部絵画科
水間芽利	愛知県立芸術大学美術学部デザイン科
加藤智紗	東海女子大学文学部美学美術史学科
中村亜希	東海女子大学文学部美学美術史学科
中村妙子	東海女子大学文学部美学美術史学科
石原千春	金沢美術工芸大学美術工芸学部
犬飼美也妃	武蔵野美術大学造形学部油絵学科
吉田恭子	武蔵野美術大学映像学科
杉山章子	名古屋大学大学院

実習内容

総論、美術館の概説と施設見学、開館・閉館業務立ち会い
課題（企画展案作成・所蔵作品解説・教育事業案作成のい
ずれか）の研究と発表
作品収集と所蔵作品展について、企画展の進行について、
美術館教育について
美術品の保存について、作品の取り扱い、作品の状態調査、
屋外彫刻のメンテナンス、立体の照明と撮影

8. 友の会の運営協力

美術館活動を支援するとともに、会員の美術に関する教養を高め美術文化の向上に貢献することを目的に、1994年度に発足した「愛知県美術館友の会」の運営に協力し、各事業を展開している。

愛知県美術館友の会
会員数：

年 度	総 数	一 般 会 員		特別会員		総数の男女別内訳		
			内学生	個人	団体	男性	女性	団体
1994年度	250	224	区分ナシ	24	2	113	135	2
1995年度	350	322	48	27	1	163	186	1
1996年度	381	353	73	27	1	173	207	1
1997年度	446	416	99	25	2	200	244	2

1997年度事業概要：

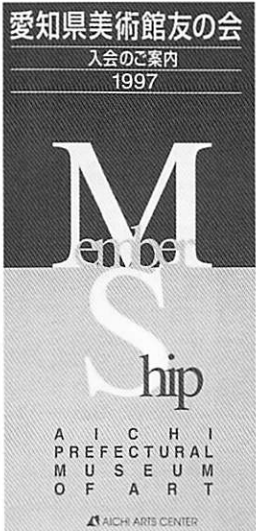
- 企画展鑑賞会等の実施
- 1997年 4月17日 「ボナール展」
 - 6月12日 理事会、総会、「北脇昇展」鑑賞会、懇親会
 - 8月 7日 「ウィリアム・モリス展」鑑賞会
 - 9月18日 「20世紀美術の冒険展」鑑賞会
 - 11月20日 「イタリア美術展」鑑賞会
 - 1998年 2月 5日 「近代美術の100年」展鑑賞会

・広報事業

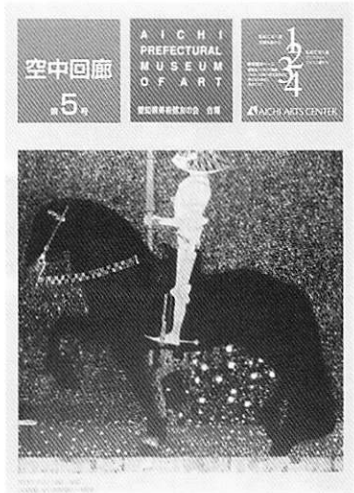
- 会報『空中回廊』の発行：
- 第5号（1997年10月）、第6号（1998年2月） A4判8頁4色刷
 - 編集（会 員）宮崎玲子、天野明、北川昌子、白尾淑子、杉山博之、中島敬子
 - （事務局）村田真宏、小笠原敦子
 - 企画展ポスター、チラシ等の宣伝材料の配布

・その他の事業

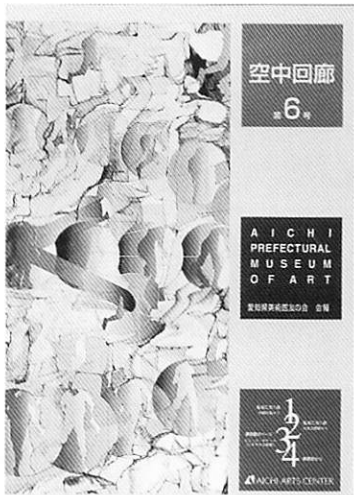
- 企画展及び所蔵作品展の無料観覧の実施
- 企画展関連商品の割引販売の実施
- 愛知県美術館が開催する講演会の聴講特別枠の設定
- 企画展の開会式及び内覧会の参加（但し、特別会員に限る）
- 芸術文化センター内のレストラン、喫茶における利用割引の実施



友の会 入会のご案内



空中回廊 第5号



空中回廊 第6号

調査研究

美術館活動の基本として、次のようなテーマによる調査研究を実施した。

ア 所蔵作品等に関すること

- ・所蔵作品による企画展「近代美術の100年 愛知県美術館コレクションの精華」の開催に併せ、学芸職員全員の分担執筆によるコレクション・ガイドブックを刊行した。
- ・寄託作品に関する研究を研究紀要に発表した。
- ・旧文化会館美術館の開館当初に藤井達吉氏から寄贈された資料1,460点に関する調査およびリスト作成を行った。

イ 企画展に関すること

- ・各企画展の開催にあたってその主題や内容に即した調査研究を進め、その成果を展覧会の構成や展示ならびにカタログに反映させた。

ウ 作品の保存に関すること

- ・作品保存状態の記述に関する考察を研究紀要に発表した。

エ 教育普及に関すること

- ・海外における美術教育について実地調査を行った。

オ その他

- ・学会におけるアート・ドキュメンテーションに関する発表など。

1997年度の調査研究実績

上記ア～オの範囲のものに限定して記載し、一般の新聞・雑誌・画集・画廊カタログ等への寄稿（評論・解説・批評等）、および大学や市民講座・テレビ・ラジオ等での講義・講演等は除いている。

ア 所蔵作品等に関すること

- ・高橋秀治 「寄託作品研究 アンドリュー・ワイエス《酒密輸入》」
（『愛知県美術館研究紀要』第4号）
- ・鯨井秀伸 藤井達吉コレクションの作品調査・リスト作成
- ・浅野 徹 「愛知県美術館のコレクション」
（『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション』）
- ・木本文平 「大正・昭和前期の日本画」「戦後の日本画」(同上)
- ・鯨井秀伸 「対象と空間の分析」「用語解説」「近代美術略年表」(同上)

- ・栗田秀法 「印象派の遺産」「明治の日本画」(同上)
- ・高橋秀治 「大正・昭和前期の版画」「抽象美術の流れ」(同上)
- ・寺門臨太郎 「異文化への眼差し」「造形と詩情」(同上)
- ・長屋菜津子 「反芸術とその後」(同上)
- ・拝戸雅彦 「素材と観念」(同上)
- ・長谷川三郎 「近代彫刻の人間像」(同上)
- ・藤島美菜 「バビに学んだ芸術家たち」(同上)
- ・古田浩俊 「色彩がつくる空間」「芸術と現実の間」(同上)
- ・牧野研一郎 「明治の洋画」「具象美術の展開」(同上)
- ・深山孝彰 「明治・大正期の彫刻」「1980年代以降の美術」(同上)
- ・村上博哉 「芸術への反逆」「想像力の世界」(同上)
- ・村田真宏 「明治末・大正期の洋画」「昭和前期の洋画」(同上)

イ 企画展に関すること（刊行順）

- ・古田浩俊 「ウィリアム・モリス展 ヴィクトリア朝の巨人」
（『A A C』20号）愛知芸術文化センター、1997年5月
- ・高橋秀治 「ウィリアム・モリス展 苦悩と葛藤」(同上)
- ・牧野研一郎 「シュルレアリスム／名古屋／北脇 昇」(同上)
- ・寺門臨太郎 「オランダ・リアリズムとその周辺」
（『20世紀美術の冒険 アムステルダム市立美術館コレクション展』カタログ）
「20世紀美術の冒険」(『A A C』21号)1997年8月
- ・拝戸雅彦 「形而上学と『素材性』の間」「作家解説」(『イタリア美術1945-1995』カタログ)
「イタリア美術1945-1995 展覧会の旅」(『A A C』22号)1997年11月

ウ 作品の保存に関すること

- ・長屋菜津子 「愛知県美術館の保存対策 その2 所蔵作品のコンディション・レポート」
（『愛知県美術館研究紀要』第4号）

エ 教育普及に関すること

- ・藤島美菜 イギリス、ドイツにおける美術教育に関する調査
（1998年2月21日～3月8日、国際交流基金
平成9年度地域・草の根交流
欧州派遣主催事業「芸術と社会を結ぶ～美術と市民の関わり」による派遣）

オ その他

- ・鯨井秀伸 「インフォメーションのコンテンツ」
国立民族学博物館『電子博物館シンポジウム』にてパネラー発表（1997年12月）

ギャラリー(貸館)

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。1997年の利用申込みは183件あり、利用調整の結果172件の展覧会が開催され、57万人余の入場者があった。なお、1992年10月の開館以来利用率は100％である。

1997年のギャラリー利用状況

1 展示室利用状況 (単位：日数)

区分 月別	利用 可能 日数 a	利用 可能 日数 b	利用 可能 日数 c	展示室別利用日数												審査保管室	
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J				
				第 1	第 2												
1997年 1 月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	6	9		
2 月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	5		
3 月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	15	6		
4 月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	7	16		
5 月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	9	14		
6 月	21	21	100.0	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	7	9		
7 月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	9	13		
8 月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	16	8		
9 月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	16	12		
10月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	22	11		
11月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	4	4		
12月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	0	0		
計	303	303	100.0											111	107		

2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展示会種別利用件数(件)								入場者数 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1997年1月	2	6	0	1	3	0	0	12	157,008
2月	2	1	0	1	1	1	0	6	18,193
3月	3	5	0	0	3	2	1	14	32,762
4月	5	7	0	1	4	0	0	17	52,175
5月	6	4	2	0	3	0	0	15	47,816
6月	2	5	1	0	2	0	0	10	22,761
7月	8	8	0	2	5	0	2	25	50,198
8月	4	4	0	0	2	0	0	10	40,311
9月	5	4	0	0	6	1	2	18	68,073
10月	6	7	0	1	2	1	0	17	39,188
11月	5	5	0	1	1	0	0	12	31,733
12月	6	5	0	1	4	0	0	16	42,081
計	54	61	3	8	36	5	5	172	602,299

(注) 利用件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理した。
「総合展」は複数の種別にまたがる展覧会を指し、規模の大小には関係がない。

3 1997年ギャラリー展示室利用団体一覧

[illegible]

[illegible]

施設概要（展示・保存環境等）

1 展示室

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能
固定展示ケースほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積載荷重 t/m ²
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.0	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
ギャラリー展示室（8階）	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

（単位：m）

2 照明

区分	部屋名	照明器具
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1～4	ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室5	自然光間接照明 ＋ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室6	スポットライト（昇降トラス）
	展示室7～8	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示ケース	蛍光灯（3,000ケルビン） ＋スポットライト（着脱式）
ギャラリー展示室（8階）	展示室A～I	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室G	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（昇降トラス）
	展示室J	光天井（蛍光灯＋ルーバー） ＋スポットライト（着脱式）

すべての紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

3 空調和

- 美術館（10階）、収蔵庫
 - ギャラリー（8階）
- 各収蔵庫、展示室及び各展示ケースで独立空調可能、24時間運転、中性能フィルター及び化学吸着フィルター装備
- 各展示室で独立空調可能、8時間運転、中性能フィルター装備

区分	展示室1～8	収蔵庫	区分	展示室A～J
設定温度	夏期 25℃ 冬期 22℃	22℃	設定温度	夏期 25℃ 冬期 22℃
温度変化	1日 ±1℃		温度変化	1日 ±2℃
設定温度	通年 55%（変更可能）		設定温度	通年 55%（変更可能）
温度変化	1日 ±3℃		温度変化	1日 ±6%

4 収蔵・保管設備

区分	数	階	備考
収蔵庫	4室	5、6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所（B5）使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

5 防災設備・体制

（1）防火：館内防災センターにて集中管理

区分	種別
火災報知器	複合GR
煙感知器	光電式スポット型1、2種他
熱感知器	差動式スポット型2種他
消火装置	ハロンガス消火設備 （展示室、収蔵庫、企画保管庫等）
消火器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

（2）防犯：館内防災センターにて集中管理

区分	内容
警備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による随時巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニター可能
防犯センサー	赤外線センサー
扉管理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンターによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザー取り付け可能

平面図

8階

1. 展示室 A (321㎡)
2. 展示室 B (321㎡)
3. 展示室 C (321㎡)
4. 展示室 D (335㎡)
5. 展示室 E (209㎡)
6. 展示室 F (212㎡)
7. 展示室 G (526㎡)
8. 展示室 H (242㎡)
9. 展示室 I (248㎡)
10. 展示室 J (378㎡)
11. 主催者控室
12. バックヤード3 (176㎡)
13. バックヤード4 (145㎡)
14. バックヤード5 (138㎡)
15. 器財倉庫1、2 (56㎡)
16. 機材倉庫3 (16㎡)
17. 機材倉庫4 (20㎡)
18. 機材倉庫5、6 (67㎡)
19. 機材倉庫7 (57㎡)
20. チケット売場
21. インフォメーション
22. ロビー
23. ラウンジ
24. アートショップ

10階

1. 展示室1 (400㎡)
2. 展示室2 (970㎡)
3. 展示室3 (110㎡)
4. 展示室4 (320㎡)
5. 展示室5 (610㎡)
6. 展示室6 (110㎡)
7. 展示室7 (200㎡)
8. 展示室8 (160㎡)
9. 屋外展示スペース (394㎡)
10. 前室1 (78㎡)
11. 前室2 (194㎡)
12. ビデオテーク
13. 監視員控室
14. 業務課
15. 美術館長室
16. 収集審査室
17. 会議室6
18. バックヤード (146㎡)
19. バックヤード (366㎡)
20. 機材倉庫 (17㎡)
21. レストラン
22. 屋上庭園
23. ホール
24. チケット売場
25. インフォメーション
26. ロビー
27. ラウンジ
28. アートショップ

12階

1. 屋上展示スペース (1,142㎡)
2. *アートスペースA
3. *アートスペースB~F
4. *アートスペースG、H
- 文化情報センター施設

関係法規(条例・規則等)

Laws and Regulations

愛知芸術文化センター条例(抜粋)

(設 置)

第1条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 愛知県美術館
- (2) 愛知県芸術劇場
- (3) 愛知県文化情報センター
- (4) 愛知県図書館

(位置及び業務)

第2条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第1のとおりとする。

(運 営)

第3条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

(職 員)

第4条 センターに、総長その他の職員を置く。

(利用の許可等)

第5条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

- (1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者
- (2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者
- (3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

(使用料)

第6条 前条第1項の許可を受けた者からは、別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までににおいて知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

- (1) 第9条第2項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。
- (2) 前条第1項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。

4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。

5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額(千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨てる。))に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金に百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第4項の規定は、前項の延滞金について準用する。

(観覧料)

第7条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第3に定める額の観覧料を納付しなければならない。

ただし、次に定める者は、この限りでない。

- (1) 小学校就学前の者
- (2) 常設展示を観覧しようとする中学生及び小学生
- (3) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生
- (4) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生、中学生又は小学生の引率者

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(利用者の義務)

第8条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第5条第2項の規定により許可に付けられた条件及び関係職員の指示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしては

ならない。

(許可の取消し及び利用の中止命令)

第9条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

(規則への委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他センターの管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(過 料)

第11条 詐偽その他不正の行為により、第6条の規定による使用料又は第7条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、1万円以下の過料を科する。

- (1) 第5条第2項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者
- (2) 第9条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者
- (3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第8条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、5千円以下の過料を科する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月20日から、第1条第2項第1号から第3号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成4年10月30日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成6年7月1日から施行する。

別表第1(第2条関係)抜粋

施設の名称	位 置	業 務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する資料を収集し、保管し及び展示すること。 (2) 美術に関する調査研究を行うこと。 (3) 展示室を利用させること。

別表第2(第6条関係)抜粋
愛知県美術館 展示室使用料

区分		単位	使用料の額(単位円)
A室、B室又はC室		全日	13,500
		時間外1時間につき	2,000
D室		全日	14,100
		時間外1時間につき	2,100
E室		全日	8,800
		時間外1時間につき	1,300
F室		全日	8,900
		時間外1時間につき	1,300
G室	全部利用	全日	22,100
		時間外1時間につき	3,300
	2分の1利用	全日	11,000
		時間外1時間につき	1,700
H室		全日	10,200
		時間外1時間につき	1,500
I室		全日	10,400
		時間外1時間につき	1,600
J室	全部利用	全日	9,500
		時間外1時間につき	1,400
	2分の1利用	全日	4,700
		時間外1時間につき	700
附属第1審査保管室	全部利用	全日	5,200
		時間外1時間につき	800
	2分の1利用	全日	2,600
		時間外1時間につき	400
附属第2審査保管室	全部利用	全日	4,400
		時間外1時間につき	700
	2分の1利用	全日	2,200
		時間外1時間につき	300

- 備考
- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
- イ～ハ省略
 - ニ 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)までをいう。
 - ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時(金曜日にあっては、午後8時)以後をいう。
- (2) 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。

表第3(第7条関係)

区 分			単 位	観覧料の額(単位)
常設 展示	個 人	大学生又は高校生	1人1回につき	300
		そ の 他 の 者	1人1回につき	500
	団 体 (20人以上)	大学生又は高校生	1人1回につき	240
		そ の 他 の 者	1人1回につき	400
企 画 展 示			1人1回につき	2,000円以内でその 都度知事が定める額

愛知芸術文化センター管理規則(抜粋)

目次

- 第1章 総則(第1条)
- 第2章 センターの管理
 - 第1節 通則(第2条～第4条)
 - 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
 - 第1款 利用期間(第5条)
 - 第2款 利用の許可等(第6条～第10条)
 - 第3款 美術品等の観覧及び模写等(第11条～第13条)

- 第4款 文化情報センターの図書等の利用(第14条～第23条)
- 第3節 図書館の管理
 - 第1款 図書等の館内利用(第24条～第26条)
 - 第2款 図書等の館外貸出し(第27条～第30条)
 - 第3款 図書等の郵送による貸出し(第31条～第33条)
 - 第4款 利用の停止(第34条)
- 第3章 雑則(第35条・第36条)

- 附則
- 第1章 総則
- (趣 旨)
- 第1条 この規則は、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)の管理に関する事項を定めるものとする。
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則
- (休館日)
- 第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。

愛知県美術館 (以下「美術館」という。)	月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に該当する場合はその翌日以降の最初の休日でない日) 12月28日から翌年1月3日まで
-------------------------	---

- 2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日を設けることができる。
- (利用時間)
- 第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。

美術館	午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)まで
-----	------------------------------

- 2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間(次項において「入館時間」という。)は、午前10時から午後5時30分(金曜日にあっては、午後7時30分)までとする。
- 3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。
- (入館の禁止等)

- 第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間

- (利用期間)
- 第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター(以下「美術館等」という。)の利用期間は、次のとおりとする。

美術館	35日以内 20日以内
展示室	
展示室附属審査保管室	

- 2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。

- 第2款 利用の許可等
- (利用の許可)

- 第6条 愛知芸術文化センター条例(平成3年愛知県条例第2号。以下「条例」という。)第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(様式第1)を美術館等の長に提出しなければならない。
- 2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書(様式第2)を交付するものとする。
- 3 前2項の規定により利用の許可を受けた者(以下「利用者」という。)の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転貸することができない。
- (利用の変更の許可)
- 第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとするときは、利用変更許可申請書(様式第3)に利用許可書を添えて美術館等の

長に提出しその許可を受けなければならない。

(利用の取消しの承認)

第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書(様式第4)に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。

(利用後の届出)

第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。

(指示及び調査)

第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。

第3款 美術品等の観覧及び模写等

(観覧券の交付)

第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者(条例第7条第1項ただし書きに規定する者及び同条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。)は、観覧料の納付と引換えに観覧券(様式第5)の交付を受けるものとする。

2 団体が観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書(様式第6)を美術館長に提出しなければならない。

(学校行事の観覧)

第12条 高等学校、中学校又は小学校の学校行事として常設展示を観覧しようとする者は、あらかじめ学校行事観覧届(様式第7)を美術館長に提出しなければならない。

(模写等の許可)

第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美術品等模写等許可申請書(様式第9)を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 美術館長は、模写等を許可するときは、美術品等模写等許可書(様式第10)を交付するものとする。

第3章 雑則

(損害賠償)

第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(雑 則)

第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

(1) 美術館の展示室の利用

(2) 美術品等の模写及び複写

(3) 芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用

(4) 文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用

(5) 文化情報センター及び図書館の図書等の利用

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。

(愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)

2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(平成3年愛知県規則第41号)は、廃止する。

(経過措置)

3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(以下「旧規則」という。)第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。

4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。

(愛知県公印規則の一部改正)

5 愛知県公印規則(昭和30年愛知県規則第1号)の一部を次のように改正する。

第2条に次の1号を加える。

(12) 愛知芸術文化センターの各施設(愛知県図書館を除く。)の長の印

附 則

1 この規則は、平成6年7月1日から施行する。

2 この規則の施行の際、現に改正前の愛知芸術文化センター管理規則の規定に基づいて作成されている申請書等の用紙は、改正後の愛知芸術文化センター管理規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

愛知県美術館運営会議設置要領

(目的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 運営会議は、次の事項について協議する。

(1) 美術館の運営に関すること。

(2) 企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。

(3) その他必要と認められる事項

(構成員)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 美術館関係者

(3) 県関係者

(4) その他愛知県美術館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理する。

(召集)

第6条 運営会議は、会長が召集する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

(設 置)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料(以下「美術品」という。)の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会(以下「収集委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。

(1) 購入する美術品の選定及び評価に関すること。

(2) 寄贈又は寄託に係る美術品の受入れに関すること。

(3) 美術品の処分に関すること。

(組 織)

第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。

2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長(以下「総長」という。)が依頼する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は再任されることができる。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場

合はこの限りではない。

(委員長)

第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。

2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会 議)

第5条 収集委員会は、委員長が招集する。

2 収集委員会は、委員の半数が出席しなければ開くことができない。

3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(評価員)

第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員(以下「評価員」という。)の評価を要請することができる。

2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者のうちから、3人以内を総長が依頼する。

- (1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。
- (2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができること。
- (3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。

(庶 務)

第7条 収集委員会の庶務は、美術館において処理する。

(雑 則)

第8条 この要項に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、昭和63年6月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年10月30日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領

(目 的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等(以下「美術品等」という。)の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長(以下「館長」という。))は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めたときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

- (1) 国、公共団体又は公益的団体
- (2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の住所、団体名及び代表者名
- (2) 借用目的
- (3) 借用期間
- (4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ
- (5) 陳列のための施設及び設備の概要
- (6) 借用期間中の管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承 認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。
- (2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとする。
- (3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。
- (4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。
- (5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。
- (6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館(以下「美術館」という。))が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則(昭和39年規則第10号)等に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託(以下「寄託」という。))しようとする者(以下「寄託者」という。))は、美術品等寄託申請申込書(様式第1)を愛知県美術館長(以下「館長」という。))に提出し、その承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等(以下「寄託品」という。))が次のいずれかに該当するときは、受託承認書(様式第2)を交付するものとする。

- (1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。
- (2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。
- (3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証(様式第3)を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他これを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

- (1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。

(2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。
(預り証の再交付)
第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願(様式第4)を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。
(寄託品の一時返還)
第10条 寄託者は、寄託品の一時返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願(様式第5)を館長に提出するものとする。
2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書(様式第6)を交付するものとする。
3 寄託品の一時返還は、預り証と引き換えに行うものとする。
(寄託期間内の返還申し出)
第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申出書(様式第7)を館長に提出するものとする。
2 館長は、寄託品期間内返還申出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書(様式第8)を交付するものとする。
3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。
(寄託品の借用)
第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者(以下「所有者」という。)に寄託品依頼書(様式第9)を提出し、その所有者から承諾書(様式第10)を受けるものとする。
(借用書の発行)
第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書(様式第11)を発行するものとする。
(準 用)
第14条 第4条(寄託期間)、第5条第2項(返還)、同条第3項(代理人による返還)及び第6条から第11条(寄託品の取扱い等)までの規定は、美術館がすすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。
(公表及び写真撮影等)
第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。
(1) 寄託品の所有者名の公表
(2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等
(補 則)
第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。
附 則
この規程は、平成5年4月1日から施行する。
(様式の記載は省略)

愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領

(目 的)
第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を設置する。
(協議事項)
第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。
(1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。
(2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。
(3) その他必要と認められる事項
(構成員)
第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。
(1) 学識経験を有する者
(2) 美術作家
(3) 美術館(ギャラリー)関係者
(4) 県関係者
(5) その他館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。
(委員の任期)
第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
(会長等)
第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。
2 会長は、委員の互選により選出する。
3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。
(召 集)
第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。
(事 務)
第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。
(その他)
第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。
附 則
この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領

(趣 旨)
第1条 この要領は、愛知芸術文化センター管理規則(以下「規則」という。)の規定に基づき、愛知県美術館ギャラリーの展示室(以下「展示室」という。)及び附属審査保管室(以下「審査保管室」という。)の利用許可等に関し必要な事項を定める。
(利用仮申込書の受付)
第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じて、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間(休館日を除く。)に展示室利用仮申込書(以下「仮申込書」という。)を提出するものとする。

利 用 期 間	仮 受 付 期 間
1月4日から6月30日までの間のもの	展示室利用開始予定期日含まれるの年の前年の6月1日から同月20日までの間
7月1日から12月27日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から同月20日までの間

2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。
(利用許可スケジュール案の作成)
第3条 美術館長(以下「館長」という。)は、前条の仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、展示室利用許可スケジュール案(以下「スケジュール案」という。)を作成する。
2 館長は、スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。
3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。
(利用許可の内定)
第4条 館長は、前条第3項により確定したスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書(以下「内定書」という。)を送付する。
(利用許可申請書の受付)
第5条 前条により内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日(以下「利用許可申請書提出期日」という。)までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書(以下「許可申請書」という。)を提出するものとする。
(利用許可書の交付等)
第6条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第6条第2項の規定に基づく利用許可書を送付する。
(利用の許可を受け得る者の範囲等)
第7条 利用許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次

の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。

- (1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
- (2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
- (3) その他芸術振興、国際親善等のため適当とみとめられる美術展

(利用許可をしない場合)

第8条 次の各号に掲げる場合には、利用許可をしない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者(禁治産者等)である場合
- (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取得する者でない場合
- (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合

(利用許可の優先順位)

第9条 利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として次のとおりとする。

- 第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用
- 第2順位 全県的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
- 第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

(利用区分)

第10条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組み合わせの利用を許可する。また、展示室G及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

(利用許可の単位等)

第11条 展示室の利用許可は、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間(以下「単位期間」という。)を最少の期間とし、引き続き4単位期間を限度として、この期間に含まれる日について行う。

2 館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。

(休館日に係る利用許可)

第12条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要がある場合は、この限りではない。

(審査保管室の利用の許可を受け得る者の範囲)

第13条 審査保管室の利用の許可を受け得る者は、展示室の利用の許可を受けた者に限るものとする。

(審査保管室の申込み)

第14条 審査保管室の利用を希望する者は、利用開始日の15日前までに、美術館と協議の上、利用許可申請書を提出するものとする。

(審査保管室の利用許可の単位)

第15条 審査保管室の利用許可は、展覧会の会期中及び前後10日間の期間に限るものとし、20日を限度とする。

附 則

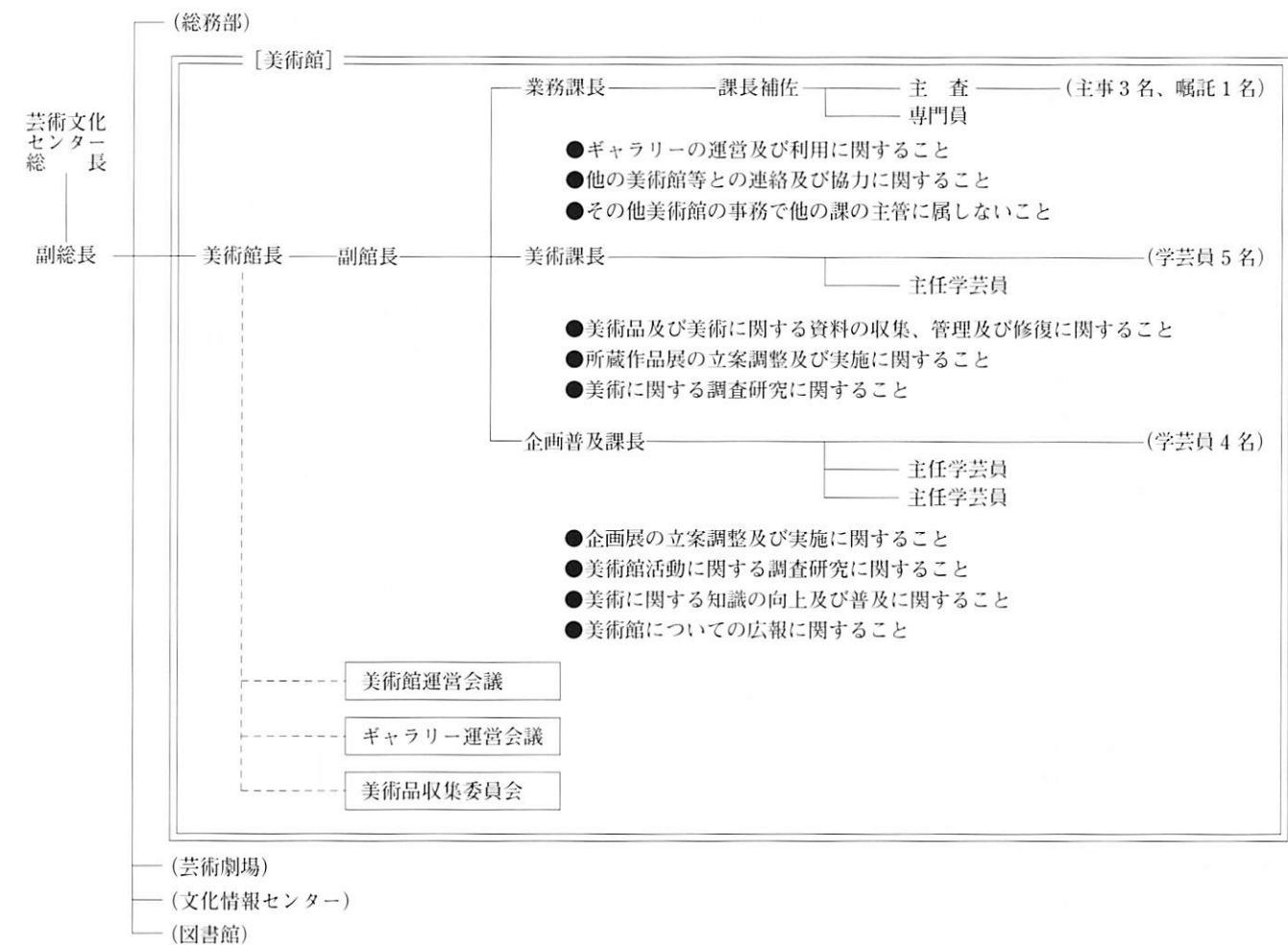
この要領は、平成4年10月30日から施行する。

附 則

この要領は、平成7年10月1日から施行する。

組織および職員構成

1. 組織図



2. 愛知県美術館職員名簿 (1998年3月)

館長	浅野 徹
副館長	長谷川三郎
業務課長	加藤 隆昭
課長補佐	清水 和彦
主査	杉村 政彦
専門員	笹橋 謙
〃	奥村 治
主事	高木 伸彦
〃	小林ひとみ
嘱託	木全 康子
美術課長	牧野研一郎
主任学芸員	高橋 秀治
学芸員	古田 浩俊
〃	寺門臨太郎
〃	坪戸 雅彦
〃	長屋菜津子
〃	鯨井 秀伸
企画普及課長	(副館長兼務)
主任学芸員	木本 文平
〃	村田 真宏
学芸員	村上 博哉
〃	深山 孝彰
〃	栗田 秀法
〃	藤島 美菜

関係委員会名簿(1998年3月、50音順)

愛知県美術館運営会議委員名簿

遠藤 恒夫	愛知県立芸術大学美術学部長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
剣持 一郎	名古屋市美術館長
酒井 哲朗	三重県立美術館長
柴田 茂	愛知県文化振興局長
千足 伸行	成城大学教授
建畠 嘉門	愛知県立芸術大学名誉教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
丹羽 晴夫	愛知県文化振興事業団事務局長
光森 進助	名古屋市博物館長
村田慶之輔	美術評論家
森田 恒之	国立民族学博物館教授

ギャラリー運営会議委員名簿

石黒 鎬二	彫刻家・行動美術協会会員
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
加藤 清之	陶芸家
柴田 茂	愛知県文化振興局長
島田 章三	洋画家・国画会会員
高木 桑風	書家・日展会員
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
丹羽 晴夫	愛知県文化振興事業団事務局長
松井 和広	日本画家・創画会会員
光森 進助	名古屋市博物館長
山脇 一夫	名古屋市美術館学芸課長

美術品収集委員会委員名簿

内山 武夫	東京国立近代美術館次長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
千足 伸行	成城大学教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

愛知県美術館年報	1997年度版 1998年12月発行
編集	愛知県美術館
発行	愛知県美術館 名古屋市東区東桜1-13-2 〒461-8525 PHONE : 052-971-5511 FAX : 052-971-5604
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭治
印刷	凸版印刷株式会社

1997 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art
Edited by
Aichi Prefectural Museum of Art
Published by
Aichi Prefectural Museum of Art
1-13-2 Higashisakura, Higashiku, Nagoya, 461-8525,
Japan
Designed and layouted by
Kyoji KOTANI
Printed by
Toppan Print Co.
©1998
Printed in Japan